地域資源の魅力が織り成す、「暮らし」と「交流」の調和したまち

高知市中心市街地活性化基本計画

平成30年4月

平成30年 3月23日認定
平成30年11月29日変更
令和元年11月29日変更
令和 2年 3月31日変更
令和 2年11月27日変更
令和 4年 3月 8日変更

高知県高知市

目　　次

○基本計画の名称 ---------- 1
○作成主体 ---------- 1
○計画期間 ---------- 1

1.中心市街地の活性化に関する基本的な方針

［1］高知市の概況 ---------- 1
［2］中心市街地の現状分析 ---------- 5
［3］地域住民のニーズ等の把握・分析 ---------- 26
［4］前計画の実施状況と取組の評価 ---------- 44
［5］中心市街地活性化の課題 ---------- 55
［6］中心市街地活性化の基本的な方針 ---------- 56

2.中心市街地の位置及び区域

［1］位置 ---------- 57
［2］区域 ---------- 58
［3］中心市街地の要件に適合していることの説明 ---------- 59

3.中心市街地の活性化の目標

［1］中心市街地の活性化の目標 ---------- 64
［2］計画期間 ---------- 65
［3］目標指標の設定 ---------- 65
［4］数値目標の設定 ---------- 68

4.土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項

［1］市街地の整備改善の必要性 ---------- 89
［2］具体的事業の内容 ---------- 90

5.都市福利施設を整備する事業に関する事項

［1］都市福利施設の整備の必要性 ---------- 96
［2］具体的事業の内容 ---------- 97

６．公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他住宅の供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等に関する事項

［１］街なか居住の推進の必要性 ---------- 99
［２］具体的事業の内容 ---------- 100

７.中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業、民間中心市街地商業活性化事業、中心市街地特例通訳案内士育成等事業その他の経済活力の向上のための事業及び措置に関する事項

［１］経済活力の向上の必要性 ---------- 103
［２］具体的事業の内容 ---------- 104

８．４から７までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項

［１］公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性 ---------- 116
［２］具体的事業の内容 ---------- 117

◇４から８までに掲げる事業及び措置の実施箇所 ---------- 119

９．４から８までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項

［１］市町村の推進体制の整備等 ---------- 120
［２］中心市街地活性化協議会に関する事項 ---------- 122
［３］基本計画に基づく事業及び措置の一体的推進 ---------- 128

10. 中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項

［１］都市機能の集積の促進の考え方 ---------- 130
［２］都市計画手法の活用 ---------- 131
［３］都市機能の適正立地、既存ストックの有効活用等 ---------- 132
［４］都市機能の集積のための事業等 ---------- 135

11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

［１］基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項 ---------- 137
［２］都市計画との調和等 ---------- 139

12. 認定基準に適合していることの説明 ---------- 142

○ 基本計画の名称：　高知市中心市街地活性化基本計画
○ 作　成　主　体　：　高知県高知市
○ 計　画　期　間　：　平成30年4月～令和5年3月（5年）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

［1］ 高知市の概況

(1) 地勢、気候

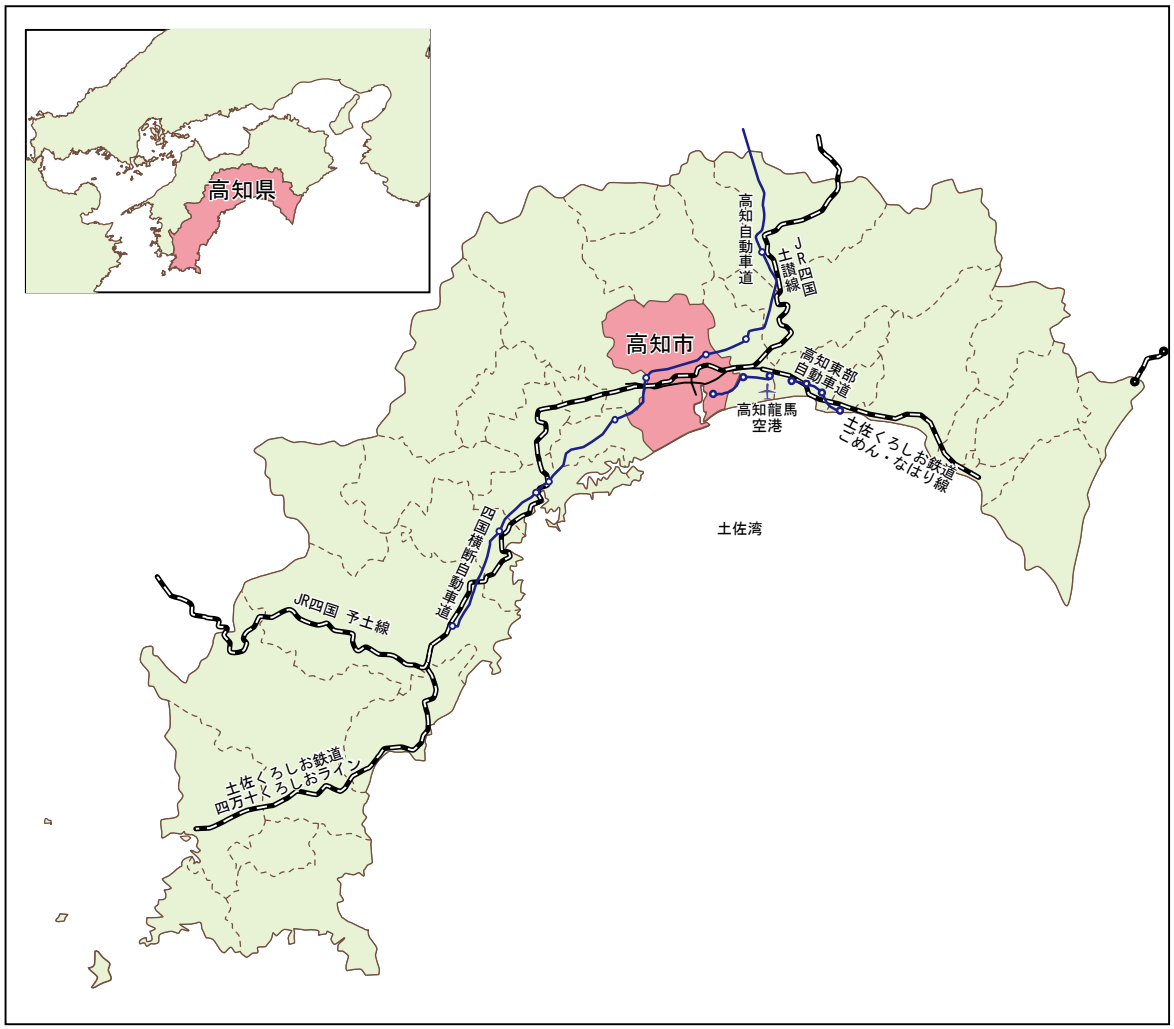
高知市は、四国南部のほぼ中央に位置している。市域面積は309.00㎢であり、市内には、東経133度33分33秒、北緯33度33分33秒と3が並ぶ「地球33番地」がある。

市の北方には急峻な四国山地があり、その支峰である市域北部の北山に源を発する鏡川の下流域を中心に都市が形成されている。南は浦戸湾を経て土佐湾に面し、東西に広がる海岸線から黒潮が流れる雄大な太平洋を一望できる地理的条件にある。

気候は、年間を通じて降水量が多く、特に夏から秋にかけては台風の進路に当たることから、年によっては3,000㎜を超す世界的にも有数の降水量がある。また、年間2,000時間を超える日照時間は、都道府県庁所在都市で上位に位置している。

年平均気温については、都道府県庁所在都市の平均値と比較して1～2度ほど高く、総じて温暖である。

■高知市の位置



(2) 歴史

○都市のなりたち

高知市は、浦戸湾沿岸に広がる平野を活用して新田や市街地を拡大してきた。高知市が位置する地域は、中世から戦国期にかけて当時の土佐国の中心地としての位置付けがなされるようになり、長宗我部元親が岡豊から大高坂山を経て浦戸に移り、その拠点として城を築いた。

その後、関ヶ原の戦いで敗れた長宗我部氏は改易となり、土佐に入国した山内一豊が慶長年間に大高坂山に城を築き、歴代の藩主が城下町を形成して以来、土佐の政治、経済、文化の中心地として発展してきた。

○明治維新･自由民権運動

幕末には坂本龍馬、武市瑞山（半平太）ら勤王の志士を輩出して明治維新の礎を築き、維新後においても「自由は土佐の山間より」といわれるように自由民権運動発祥の地として、その思想を全国に発信した。城下の板垣退助、片岡健吉、坂本直寛をはじめ、先進的な憲法草案を起草した植木枝盛や、全国初の婦人参政権を要求した楠瀬喜多、さらに土佐山では山嶽社を結成した和田三郎、春野では吉良順吉や細川義昌ら、多くの人材が活躍し、自由と平等の精神に培われた政治的伝統が育まれてきた。

■高知城

○市政のあゆみ

市制の施行は1889(明治22)年であり、以後、幾度かの合併を経ながら県都として発展してきた。1945(昭和20)年7月の空襲により高知市中心部の建物はその大半が焼失し、さらに翌年12月には南海地震が発生し、強い揺れによる建物の倒壊や地盤沈下による浸水など大きな被害を受けたが、復興へのめざましい取り組みを経て地方中核都市として発展し、1998(平成10)年には四国初の中核市となった。

現在、県民人口の4割以上の人々が暮らす地方中核都市であるとともに、みどり豊かな森林を持つ鏡村・土佐山村、県内有数の農業生産高を誇る春野町との合併により、中山間地域、田園地域、都市部がバランスよく調和し、仁淀川と、市内中心部を流れる鏡川などの清流を有する都市となっている。

■高知市の市街地

(3) 文化

○風土

高知市は、懐の深い中山間地域や生産力の高い田園地域、魚種が豊富な海域などの高い多様性と優位性を併せ持つ自然と、その自然に対して先人が営々と働きかけてきた歴史、そして自然と調和しながら発展した産業が織りなす、独特の文化が花開く土壌を培ってきた。

さらに、土佐国の中心地として発展してきた過程の中で、この地を訪れた多くの知識人や文化人の影響を受けながら文化の成熟度を高め、現代まで受け継いできた。

このような風土によって培われた明朗闊達で反骨精神の強い土佐人の気質は、江戸末期から明治にかけての幕末の志士や自由民権運動での活躍に現われただけでなく、現代においても、市民によるさまざまな地域コミュニティ活動を支える積極的な協働の精神として受け継がれている。

○地域に根ざした文化

高知市周辺の平野は県下有数の規模を誇り、食料の供給地として農業が発展してきた。江戸時代から現在まで連綿と続く日曜市をはじめとした街路市には、新鮮で豊富な食材が並び、高知市の地産地消の食文化を支えてきた。豪快な皿鉢料理に代表される「おきゃく」（宴会）や、大いに盛り上がる箸拳などは、土佐の宴席文化として広く注目されている。

■日曜市

音楽、演劇、舞踊、美術、映画上映などの芸術文化については、市内各所で市民の多彩な活動が繰り広げられており、高知市文化祭や高知街ラ・ラ・ラ音楽祭などの大規模な文化的催しが市民の力で成功している。中でも、横山隆一など独特な作風を持つ作家を輩出したまんがや、原宿や札幌など全国各地の200か所以上で開催されるまでに広がりを見せた本家本元のよさこい祭りなどは、自由で豊かな表現を基礎とした独特の芸術や文化として昇華し、日本国内だけでなく海外までその発信力が広がっている。

■よさこい祭り

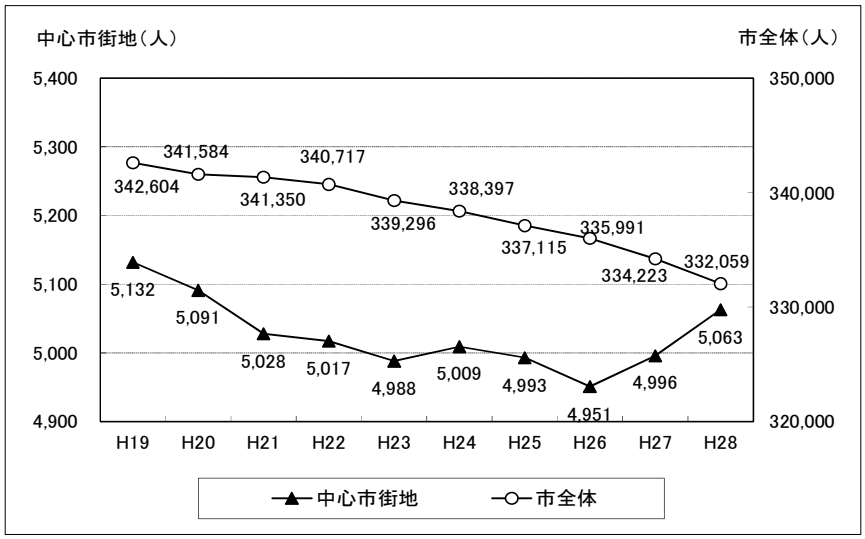
[2] 中心市街地の現状分析

(1) 人口・世帯

①人口

市全体の人口の推移を見ると、平成19年度から平成28年度までに約3.1%（10,545人）減少している。

一方、中心市街地（本基本計画の区域をいう。以下同じ。）の人口は平成26年度を底にそれまでの減少トレンドを脱し増加に転じている。中心市街地の人口の市全体に占める割合は平成19年度時点の約1.50%と比較して、平成28年度は約1.52%とやや上回っている。



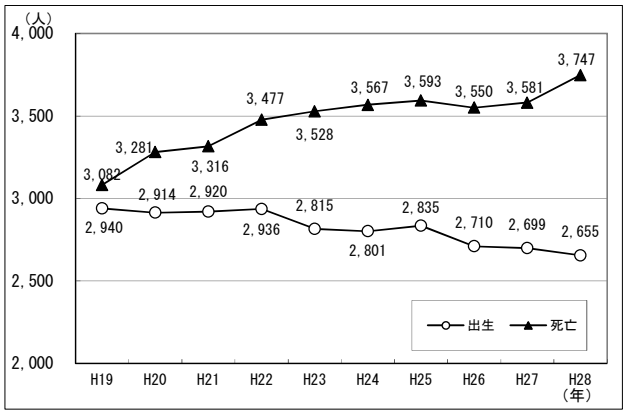
■中心市街地と市全体の人口の推移

※資料：住民基本台帳、各年度3月31日現在値（外国人住民を含む。）

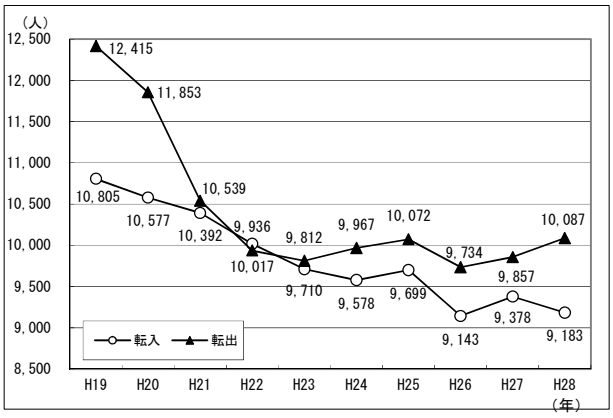
高知市全体の人口減少要因を見るため、推移の内訳を自然増減と社会増減に分けて見る。

全国的な少子高齢化の流れと同じく、高知市も出生件数が減少傾向、死亡件数が増加傾向となっている。

また、社会増減は、第2次産業等の雇用環境を大幅に悪化させた平成20年のリーマンショックを引き金とする全国的な景気低迷等を背景に、転出件数が大幅に減少し、平成21年～平成23年はほぼ同数になったものの、平成23年以降は再び転出超過傾向にある。



■高知市全体の人口の自然増減の推移

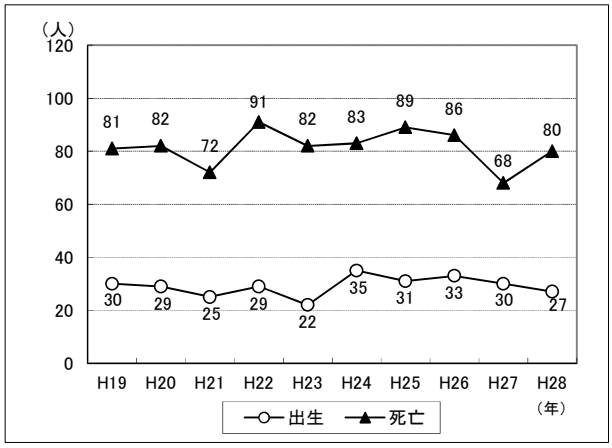


■高知市全体の人口の社会増減の推移

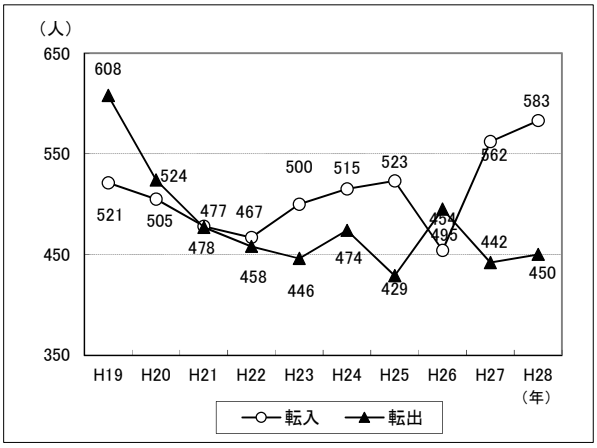
※市全体の出生、死亡、市全体の転入、転出は、各年高知市統計書の数値

※平成24年7月9日の住民基本台帳法改正により、外国人が住民基本台帳の登録対象となったため、平成24年7月からは人口の数値に外国人が含まれている。

次に、中心市街地の自然動態、社会動態を見ると、自然増減は出生数に対し死亡数が超過しており自然減となっているが、傾向としてはともに横ばいである。一方、社会増減は市全体と同様の傾向を示しているが、平成21年に転入が転出を上回り、平成23年以降は増加傾向にある。



■中心市街地の人口の自然増減の推移



■中心市街地の人口の社会増減の推移

※出生、死亡、中心市街地への転入、中心市街地からの転出は、各年1月～12月の住民基本台帳届出件数
※平成24年7月9日の住民基本台帳法改正により、外国人が住民基本台帳の登録対象となったため、平成24年7月からは人口の数値に外国人が含まれている。

中心市街地は高知市全体と比べ高齢化[※1]が進んでいるため、一貫して出生より死亡が多く、自然減となっているが、その規模は毎年40人から60人程度の小規模な減少に留まっている。

一方、社会増減は、中心市街地への転入者が平成23年から増加に転じ、平成26年は転出者が転入者を上回ったものの、平成27年からは再び転入が転出を上回り、増加の幅が大きくなっている。

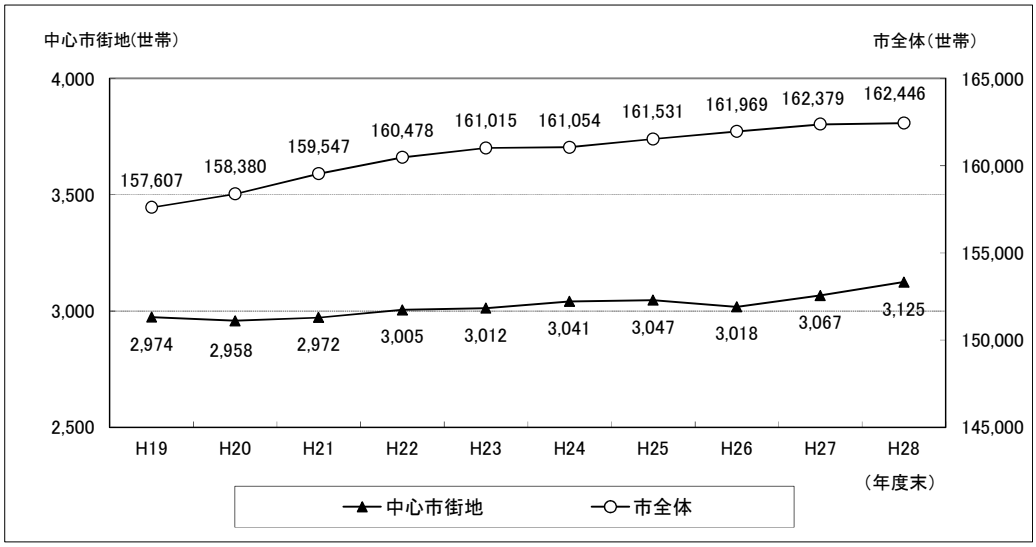
この要因としては、平成25年には「セントラルレジデンス高知中央公園」、平成27年には「帯屋町チェントロ」、平成28年には「ロイヤルガーデン鷹匠公園」が完成するなど、これまでの中心市街地活性化施策による居住環境の向上、高齢者等を中心とした街なか居住ニーズの高まりを背景にしていると考えられる。

※1　P8③高齢化率参照

②世帯数

平成19年度から平成28年度までの世帯数の推移を見ると、高知市全体では約3.1％（4,839世帯）増加しているのに対し、中心市街地では、約5.1％（151世帯）増加しており、とくに平成27年度及び平成28年度の増加幅が大きい。

１世帯当たりの人員を算出すると、平成28年度末時点で市全体では2.04人／世帯、中心市街地では1.62人／世帯となっており、市全体と比べ中心市街地では、単身者や少人数世帯が多いと推察される。



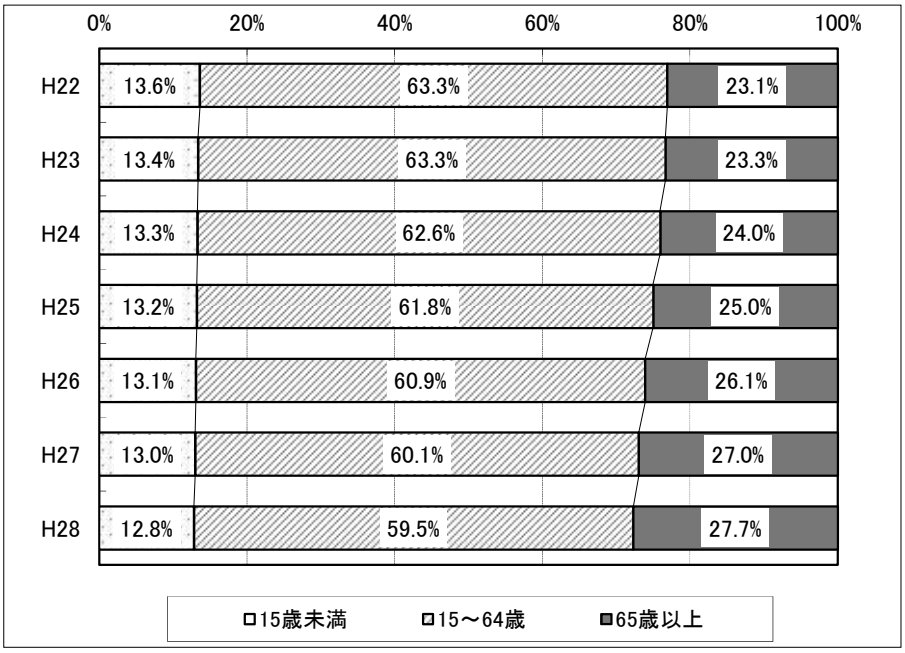
■中心市街地の世帯数の推移

※市全体・中心市街地の住民世帯数については、各年度末3月31日現在の値（市データ）

③高齢化率

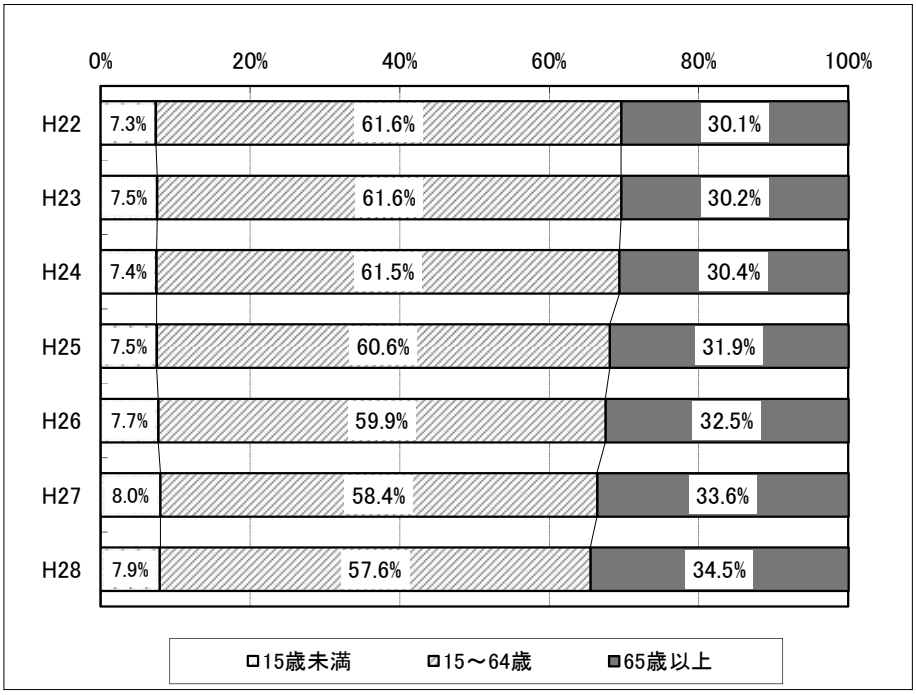
本市の人口を年齢3区分で見ると、着実に高齢化が進んできており、65歳以上の割合は平成28年現在27.7％と、全国と比べ数値も若干高くなっている。また、中心市街地においては、65歳以上の割合は34.5％と市全体よりも更に高い割合を占めている。

15～64歳の割合が減少し続けていることから、今後も高齢化が進むと見込まれている。



■高知市の年齢3区分別人口の変遷

※資料：住民基本台帳
※端数処理等の関係で表記数値合計は100%にならない。



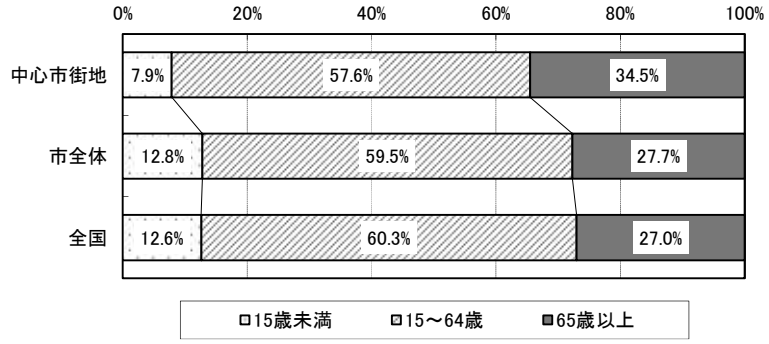
■中心市街地の年齢3区分別人口の変遷

※資料：住民基本台帳
※端数処理等の関係で表記数値合計は100%にならない。

■年齢3区分別人口割合（平成28年）

	15歳未満	15～64歳	65歳以上
中心市街地	7.9%	57.6%	34.5%
市全体	12.8%	59.5%	27.7%
全国	12.6%	60.3%	27.0%

（資料：全国、市全体は国勢調査、中心市街地（本活性化基本計画の区域）は住民基本台帳）



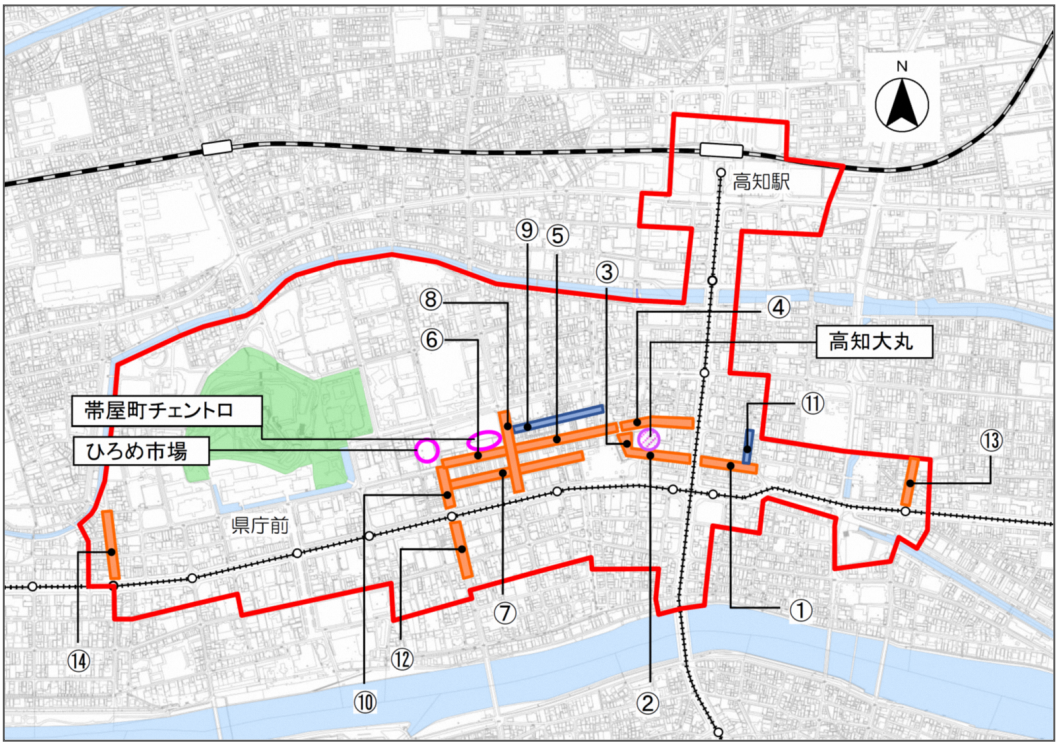
■年齢3区分別人口割合（平成28年）

(2) 経済活力状況

①中心市街地小売商業の状況

中心市街地には14の商店街があり、県下で唯一の百貨店である高知大丸も立地している。

また、他市に例を見ない「ひろめ市場」は、観光客にとって土佐のおきゃく文化を体験できるスポットとして賑わっており、年間約280万人の集客がある。平成17年のダイエー撤退後10年近く活用のなかった旧ダイエーショッパーズプラザ跡地には新たな複合施設として平成27年に「帯屋町ＣＥＮＴＲＯ（チェントロ）」がオープンした。



■中心市街地の商店街分布

■商店街一覧

番号	商店街	組合の有無
①	はりまや橋商店街	○
②	京町商店街	○
③	新京橋商店街	○
④	壱番街商店街	○
⑤	帯屋町一丁目商店街	○
⑥	帯屋町二丁目商店街	○
⑦	おびさんロード商店街	○

番号	商店街	組合の有無
⑧	中の橋商店街	○
⑨	柳町商店街	
⑩	大橋通り商店街	○
⑪	魚の棚商店街	
⑫	天神橋通商店街	○
⑬	菜園場商店街	○
⑭	升形商店街	○

②中心市街地小売商業の推移

本市中心市街地商業集積地区（※）の小売商業が市全体に占める割合を見ると、平成26年で商店数は市全体の14.4%、従業者数は9.1%、年間販売額は8.7%、売場面積は9.7%となっている。

経年変化を見ると、市全体では商店数と売場面積が平成19年以降減少が続いている。年間販売額や従業員数は平成24年まで減少が進んだが、平成26年には若干上向いている。

一方で、中心市街地商業集積地区では、平成14年と比べ、商店数・従業者数・年間販売額・売場面積全てで大幅に減少し、５割程度の落ち込みとなっている。とくに、従業者数・年間販売額・売場面積については、平成14年12月の高知西武及び平成17年11月のダイエーの撤退要因が大きいと考えられる。

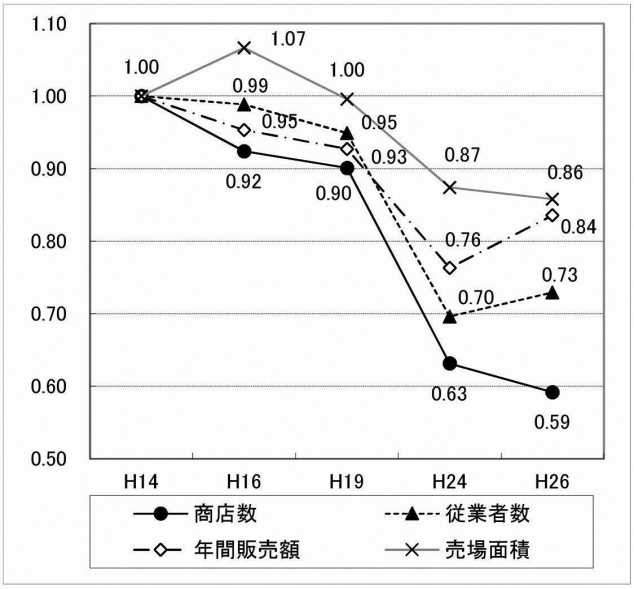
中心市街地の市全体に占める割合は、商店数と比較して年間販売額や売場面積の減少幅が大きく、市全体が近郊の大型商業店舗に依存している傾向にあり、中心市街地の商業の衰退が顕著となっている。

※中心市街地商業集積地区は、天神橋通、大橋通り、帯屋町1丁目、帯屋町2丁目、壱番街、京町・新京橋、はりまや橋、柳町、本町1丁目、はりまや町1丁目、はりまや町2丁目、堺町、南はりまや町1丁目、菜園場、升形、ひろめ市場の商業集積地区

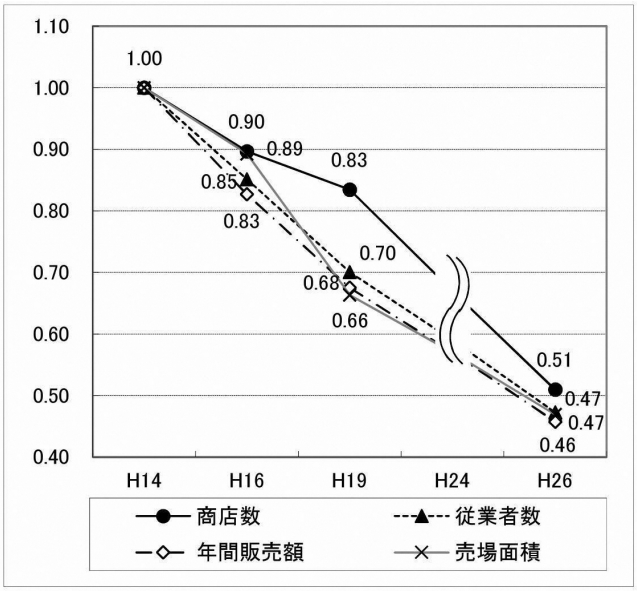
■中心市街地商業集積地区小売商業の推移

	商店数			従業者数			年間販売額			売場面積		
	市全体（店）	中心市街地商業集積地区（店）	中心市街地の市全体に占める割合（中心市街地／全市）	市全体（人）	中心市街地商業集積地区（人）	中心市街地の市全体に占める割合（中心市街地／全市）	市全体（百万円）	中心市街地商業集積地区（百万円）	中心市街地の市全体に占める割合（中心市街地／全市）	市全体（㎡）	中心市街地商業集積地区（㎡）	中心市街地の市全体に占める割合（中心市街地／全市）
H14	4,052	677	16.7%	25,298	3,550	14.0%	429,268	68,285	15.9%	459,618	81,742	17.8%
	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.00)	(1.00)
H16	3,744	607	16.2%	25,009	3,022	12.1%	409,233	56,468	13.8%	490,213	72,968	14.9%
	(0.92)	(0.90)	(0.97)	(0.99)	(0.85)	(0.86)	(0.95)	(0.83)	(0.87)	(1.07)	(0.89)	(0.84)
H19	3,651	565	15.5%	24,005	2,487	10.4%	397,945	46,106	11.6%	457,757	54,224	11.8%
	(0.90)	(0.83)	(0.93)	(0.95)	(0.70)	(0.74)	(0.93)	(0.68)	(0.73)	(1.00)	(0.66)	(0.67)
H24	2,559	－	－％	17,612	－	－％	327,639	－	－％	401,775	－	－％
	(0.63)	(－)	(－)	(0.70)	(－)	(－)	(0.76)	(－)	(－)	(0.87)	(－)	(－)
H26	2,398	345	14.4%	18,449	1,678	9.1%	358,709	31,250	8.7%	394,360	38,366	9.7%
	(0.59)	(0.51)	(0.86)	(0.73)	(0.47)	(0.65)	(0.84)	(0.46)	(0.55)	(0.86)	(0.47)	(0.55)

※データ：平成14年、16年、19年、26年は商業統計、平成24年は経済センサス



【　市全体　】



【中心市街地商業集積地区】

■小売商業のH14との比較

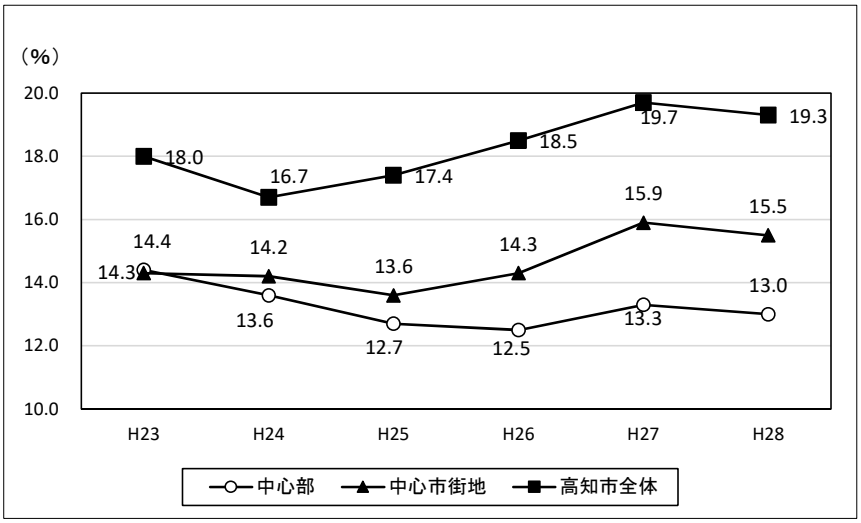
※H24は商業統計の実施がないため、数値なし

③商店街の空き店舗の状況

商店街の空き店舗率の推移を見ると、市全体及び中心市街地の商店街では、年度によりばらつきがあるが、悪化傾向となっている。

一方、中心市街地の中心部（※）では、前計画の進捗により出店が増加し、改善傾向となっている。

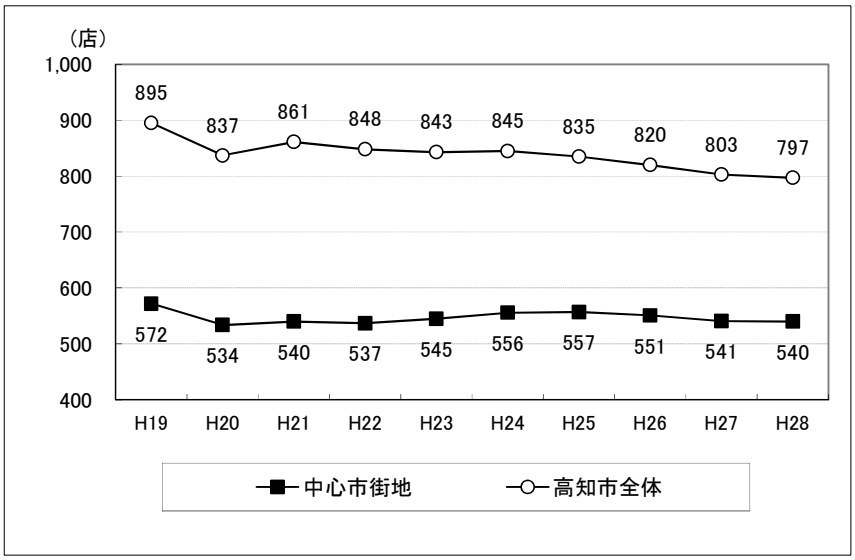
※中心市街地の範囲はP10の商店街分布図を参照
※中心部：はりまや橋商店街、京町商店街、新京橋商店街、壱番街商店街、帯屋町一丁目商店街、帯屋町二丁目商店街、おびさんロード商店街、中の橋商店街、柳町商店街、大橋通り商店街、魚の棚商店街の合計



■中心市街地商店街の空き店舗率の推移

※データ：「商店街空き店舗調査」（高知市、高知商工会議所実施）

商店街の営業店舗数の推移を見ると、市全体、中心市街地ともに概ね減少傾向にあるが、中心市街地のほうがより変動幅が少ない。



■中心市街地商店街の営業店舗数の推移

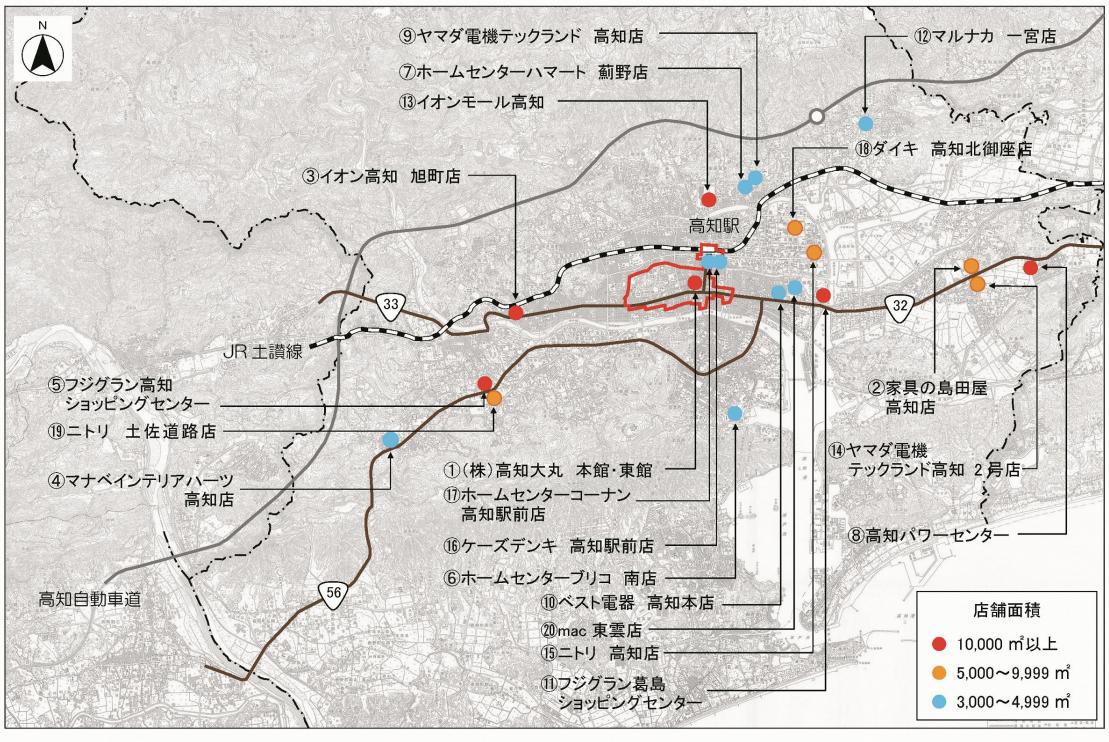
※データ：「商店街空き店舗調査」（高知市、高知商工会議所実施）

④大規模小売店舗の状況

中心市街地では、平成26年8月にリブロードが閉店し、大規模小売店舗は高知大丸など3店舗のみとなっている（平成29年3月現在）。一方、郊外では駐車場が整備されたロードサイド型店舗の立地が続いている。市内の店舗面積3,000㎡以上の小売店に占める中心市街地の店舗面積は13.1%となっている。

■大規模小売店舗一覧（店舗面積3,000㎡以上）

	大規模小売店舗の名称	開店日	建物の概要		中心市街地
			実態	店舗面積(㎡)	
1	(株)高知大丸　本館・東館	S30.11	百貨店	14,509	○
2	家具の島田屋　高知店	S50.3	専門店	7,267	
3	イオン高知　旭町店	S53.8.11	スーパー	13,217	
4	マナベインテリアハーツ　高知店	H4.5.16	専門店	4,654	
5	フジグラン高知ショッピングセンター	H6.7.20	スーパー	14,360	
6	ホームセンタームリコ　南店	H9.3.15	ホームセンター	3,700	
7	ホームセンターハマート　薊野店	H9.6.21	ホームセンター	4,247	
8	高知パワーセンター	H11.4.9	複合型専門	10,015	
9	ヤマダ電機テックランド　高知店	H12.2.11	専門店	3,600	
10	ベスト電器　高知本店	H12.11.3	専門店	3,800	
11	フジグラン葛島ショッピングセンター	H12.11.29	スーパー	10,868	
12	マルナカ　一宮店	H12.12.15	スーパー	3,716	
13	イオンモール高知	H12.12.21	複合型ショッピングセンター	48,170	
14	ヤマダ電機テックランド高知　2号店	H20.5.29	専門店	6,988	
15	ニトリ　高知店	H20.12.19	専門店	5,317	
16	ケーズデンキ　高知駅前店	H21.12.3	専門店	4,250	○
17	ホームセンターコーナン　高知駅前店	H23.12.21	ホームセンター	4,411	○
18	ダイキ　高知北御座店	H26.4.1	ホームセンター	5,570	
19	ニトリ　土佐道路店	H28.7.7	専門店	5,132	
20	mac　東雲店	H28.11.24	専門店	3,591	
合計				177,382	

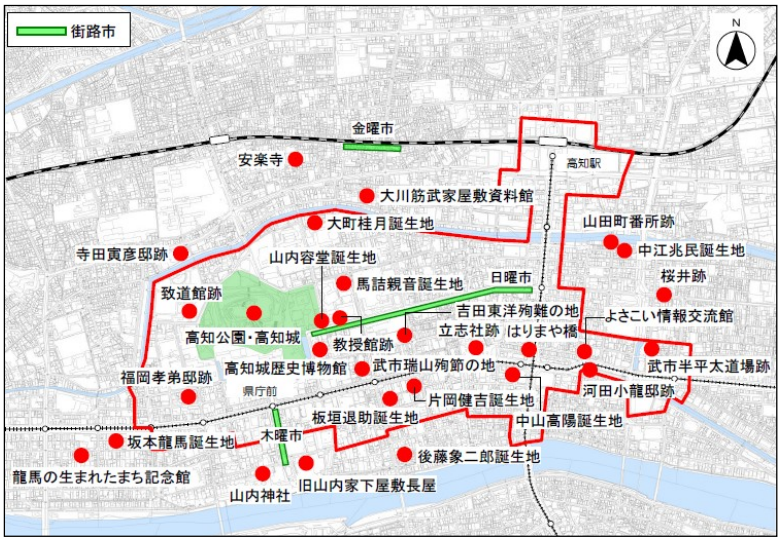


■大規模小売店舗の立地状況

(3) 観光

①観光資源

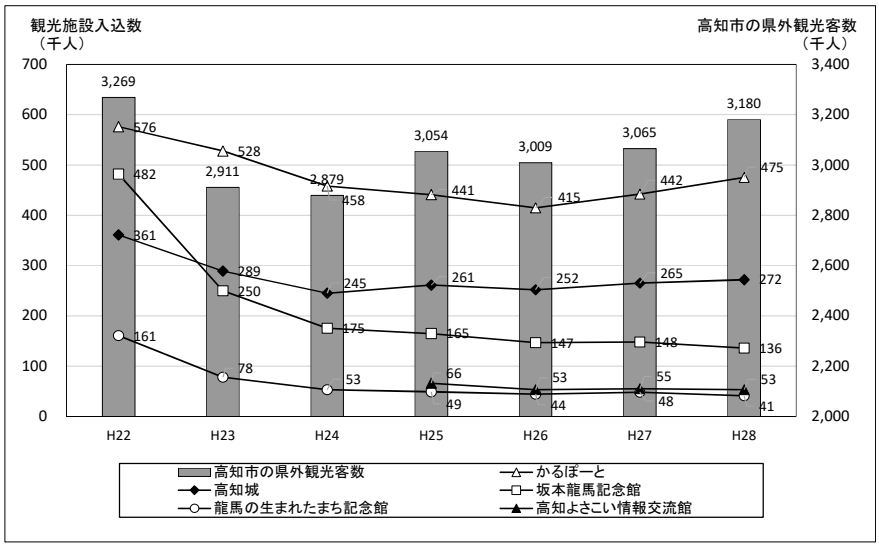
本市は、土佐藩の城下町として発展した都市であるとともに、明治維新や自由民権運動に大きな役割を果たした人材を多く輩出しているため、「高知城」や「坂本龍馬や板垣退助のゆかりの地」など中心市街地に観光資源が豊富に点在している。また、開設以来300年を超える「街路市」や、今や全国に広がっている「よさこい祭り」など、文化的な資源も貴重な観光資源となっている。平成29年3月には高知城歴史博物館が開館し、平成29年及び平成30年はそれぞれ大政奉還・明治維新150年にあたり、さまざまな取組を行っている。



■中心市街地の観光資源の分布状況

②高知市の観光客入込数

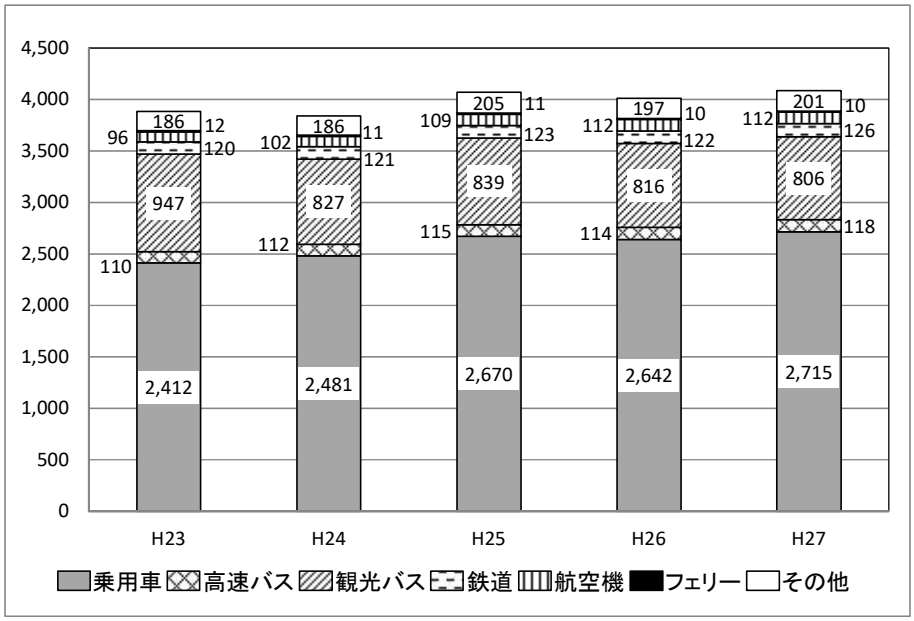
高知市の県外観光客数は、ＮＨＫ大河ドラマ「功名が辻」（H18年放映）、「龍馬伝」（H22年放映）の舞台となったことで、平成22年に急激に増加し次年に一旦減少したが、その後、官民一体となった高知の食・歴史などをテーマとした取組が、県外観光客数の増加につながっており、近年は年間300万人を超えている。



■高知市の県外観光客数と観光施設入込数

※資料：県外観光客入込・動態報告書〔高知県〕
※よさこい情報交流館はH25年4月開設

また、交通手段は乗用車が増加傾向、観光バスが減少傾向にあり、団体旅行型から個人型旅行へのシフトが要因であると推察される。

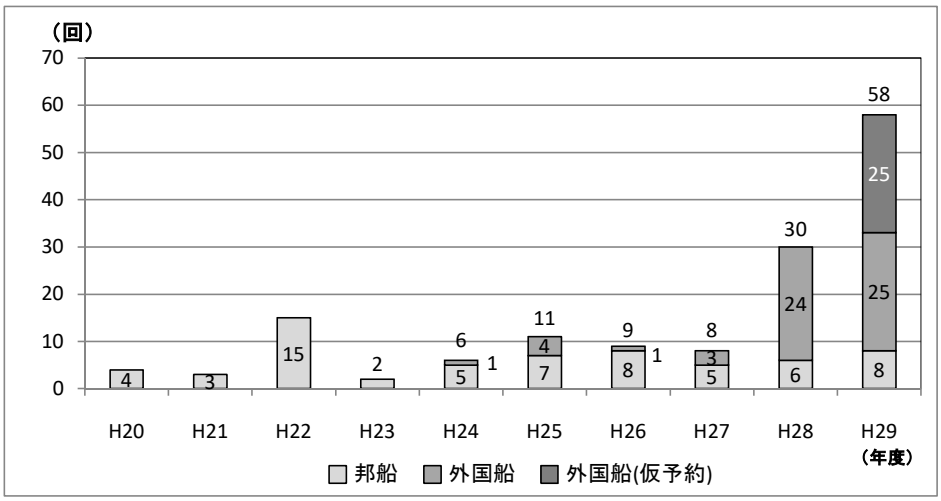


■交通機関別観光客数の推移（高知県内）

※資料：県外観光客入込・動態報告書〔高知県〕

③クルーズ客船の寄港回数

高知新港への寄港回数は、平成26年度から高知新港のマイナス14m岸壁の暫定供用が開始されたことから、クルーズ客船の寄港回数が増加しており、特に外国船については平成28年度以降、増加が顕著である。



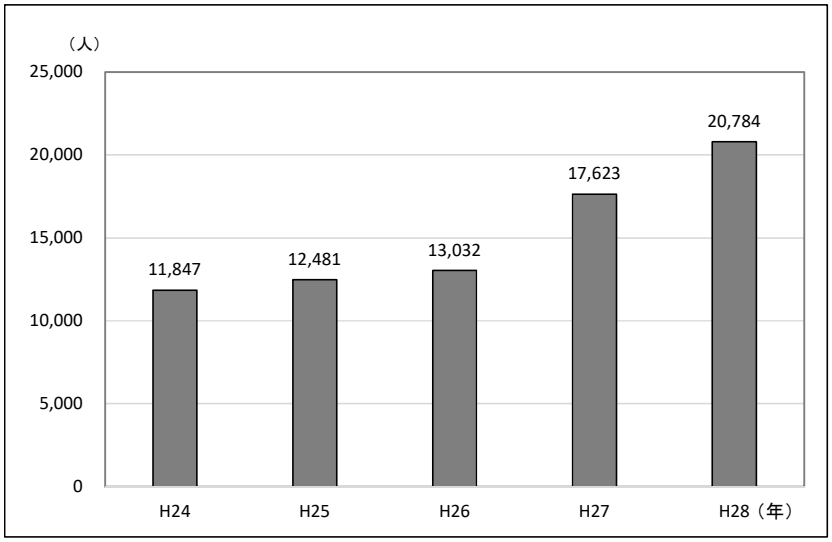
■クルーズ客船の寄港回数の推移（H29年6月末現在）

※データ：高知県港湾振興課

④高知市の外国人観光客

近年、高松空港に就航する海外直行便の増加、高知新港へのクルーズ客船の寄港回数増加などに伴い、高知市の外国人観光客も増加している。

平成26年までは緩やかな増加傾向であったが、平成28年は平成27年と比べ15.2%増加した。



■外国人延べ宿泊者数の推移（従業員数10人以上の施設）

※資料：観光庁「宿泊統計調査」＜市区町村別集計＞参考第８表「施設所在地，従業員数別外国人延べ宿泊者数」

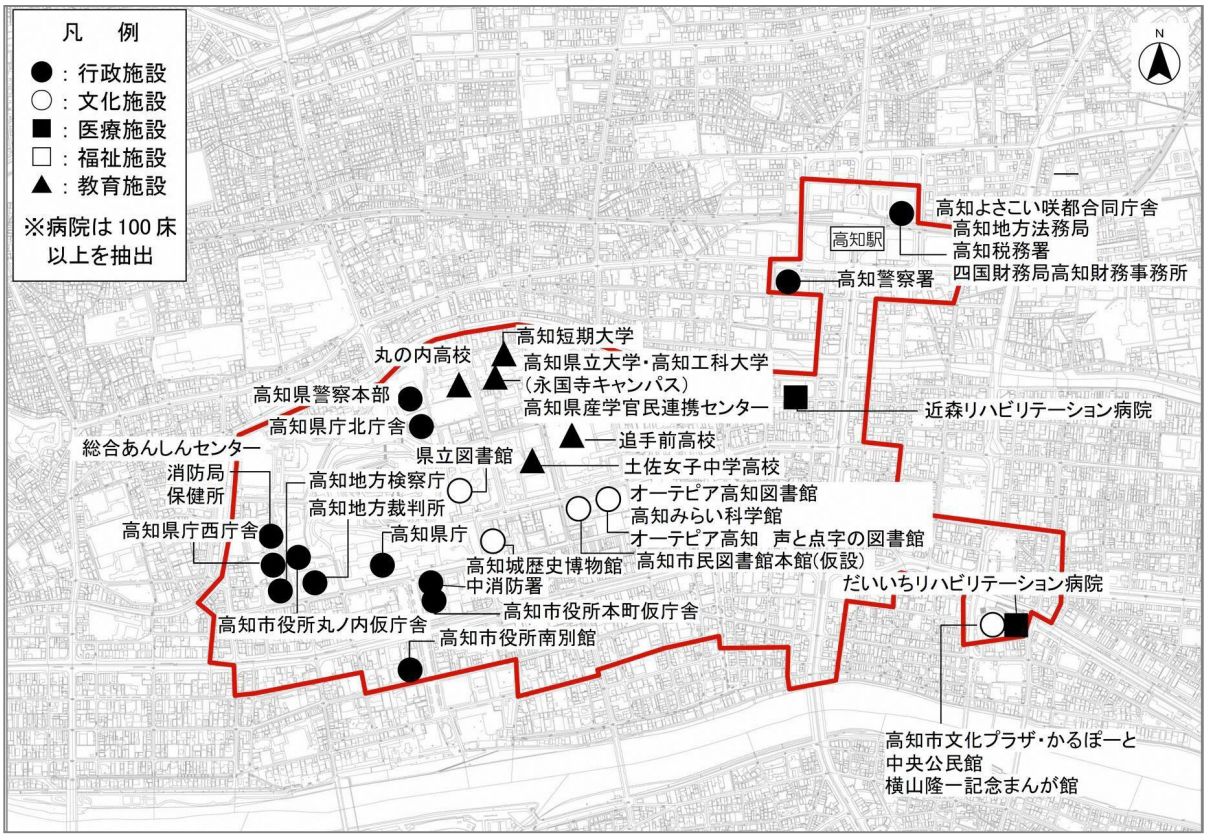
(4) 都市機能関係

①公共公益施設の立地状況

中心市街地には、市役所や県庁をはじめとする主要な公共施設や医療・福祉施設の多くが集積している。高知県立大学永国寺キャンパスでは、老朽化した学舎を新築・改修して再整備を行い、平成27年に文化学部が拡充された。あわせて、同キャンパス内に高知工科大学経済・マネジメント学群が、平成28年には高知県産官学連携センター（ココプラ）が設置されるなど、「知の拠点」として拡充・整備がすすめられている。

■中心市街地における公共公益施設の整備状況

施設名称	整備時期
高知県立大学文化学部	H27年4月　拡充
高知工科大学経済・マネジメント学群	H27年4月　永国寺キャンパスに設置
高知県産学官民連携センター（ココプラ）	H27年4月　開設
高知県立高知城歴史博物館	H29年3月　開館
オーテピア高知図書館	H30年7月　開館予定
オーテピア高知　声と点字の図書館	同上
高知みらい科学館	同上
高知市役所本庁舎	H31年度　供用開始予定



※平成29年3月現在

■主要公共公益施設の位置

■主要公共公益施設一覧

	中心市街地内	中心市街地周辺	
行政施設	高知地方法務局 高知税務署 四国財務局高知財務事務所 高知地方検察庁 高知地方裁判所 高知県庁 高知市役所 高知県警察本部 高知警察署 消防局（総合あんしんセンター内） 保健所（総合あんしんセンター内） 中消防署	中消防署江ノ口出張所 高知中央郵便局	
文化施設	県立図書館 仮設高知市民図書館・高知点字図書館 高知城歴史博物館 中央公民館 高知市文化プラザかるぽーと 横山隆一記念まんが館	県民文化ホール 江ノ口市民図書館 江ノ口文化センター 龍馬の生まれたまち記念館	
医療施設	だいいちリハビリテーション病院 近森リハビリテーション病院	高知赤十字病院 高知記念病院 土佐病院 愛宕病院 高知病院 国吉病院 上町病院 近森病院	近森病院第二分院 近森病院外来センター 近森オルソリハビリテーション病院 田辺病院 岡村病院 細木病院 細木ユニティ病院 田中整形外科病院
福祉施設		保健福祉センター 江ノ口保育園 江ノ口東保育園 つくし保育園 南街保育園 こうちまち保育園 たかしろ乳児保育園 高知聖園マリア園 丸の内保育園	江陽保育園 さえんば保育園 小高坂保育園 小高坂双葉園 上街保育園 石立保育園 潮江双葉園 筆山保育園
教育施設	高知短期大学 高知県立大学（永国寺キャンパス） 高知工科大学（永国寺キャンパス） 高知追手前高等学校 高知丸の内高等学校 土佐女子中学校・高等学校	少年補導センター 高知県教育センター分館 江ノ口養護学校 盲学校 高知小津高等学校 高知北高等学校 太平洋学園高等学校 土佐中学校・高等学校 愛宕中学校 城西中学校 城東中学校 潮江中学校	高知大学附属中学校 高知大学附属小学校 小高坂小学校 第四小学校 江ノ口小学校 江陽小学校 はりまや橋小学校 第六小学校 あたご幼稚園 高知聖園幼稚園 高知大学附属幼稚園 桜井幼稚園

※平成29年3月現在

(5) 交通

①公共交通機関（鉄道、路面電車、バス）

中心市街地の公共交通については、中心市街地北側にＪＲ高知駅が位置するとともに、はりまや橋を中心とした十字方向に路面電車と路線バスの経路が集中しており、ＪＲ高知駅及びはりまや橋を中心に公共交通ネットワークが広がっている。

凡例

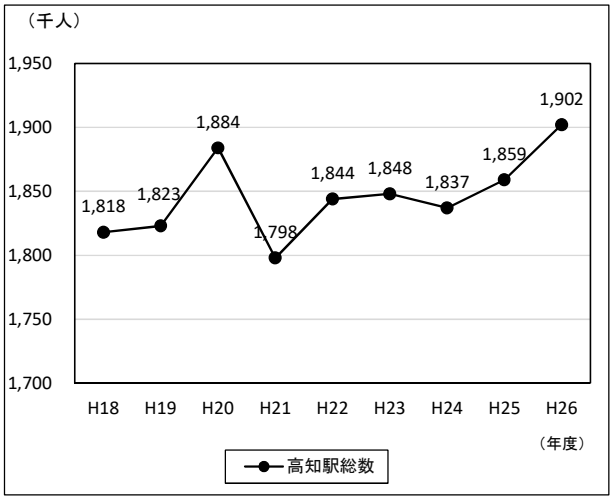
■公共交通ネットワーク

※資料：とさでん交通㈱ＨＰ

《鉄道の利用状況》

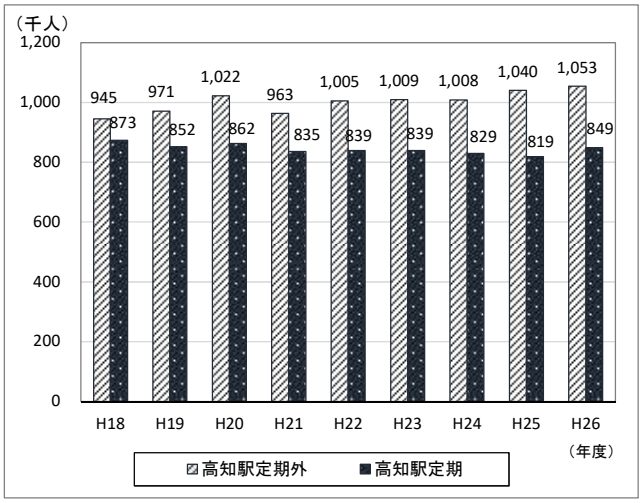
ＪＲ高知駅の乗降客数は平成26年度に年間190万人を超え、平成26年度と平成18年度の比較で4.6%増加しており、増加傾向にある。

また、ＪＲ高知駅の乗降客数のうち、定期外利用が平成26年度／平成18年度比で11.4%増加しており、観光等、通勤・通学以外で高知駅を利用する人が増加していると考えられる。



■ＪＲ高知駅の乗降客数の推移

※資料：高知市統計書



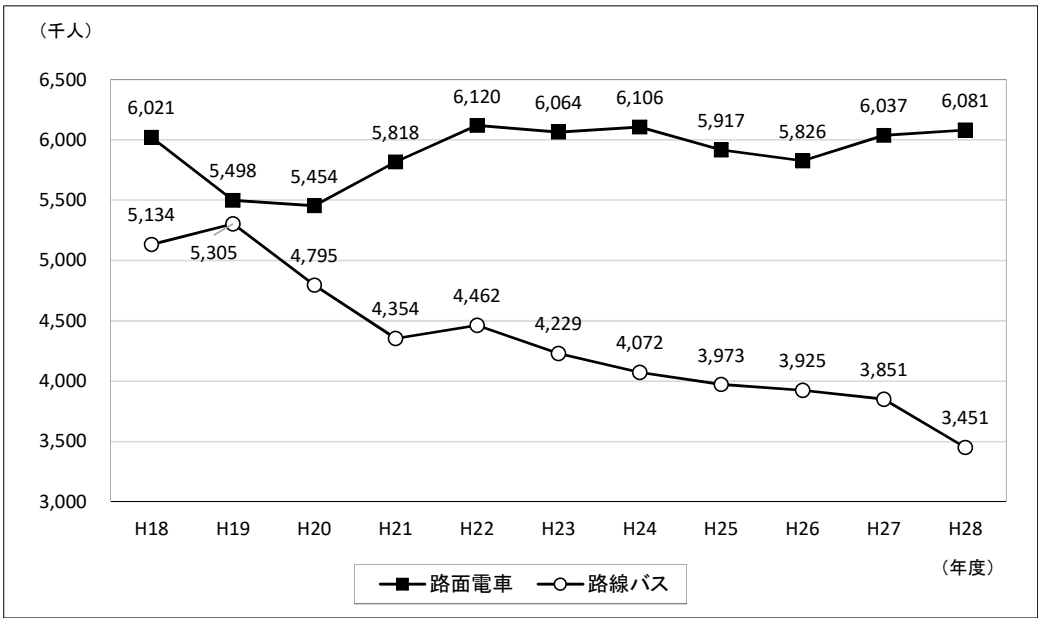
■高知駅乗降客数における定期利用・定期外利用の状況

※資料：高知市統計書

《路面電車・路線バスの利用状況》

路面電車については、平成20年度までは輸送人員が減少していたが、平成21年度から増加に転じたものの、その後はほぼ横ばい傾向が続いている。

路線バスについては、平成19年度から依然として輸送人員が減少傾向にある。なお、平成26年に路面電車及び路線バスの事業者がとさでん交通株式会社に一本化された。



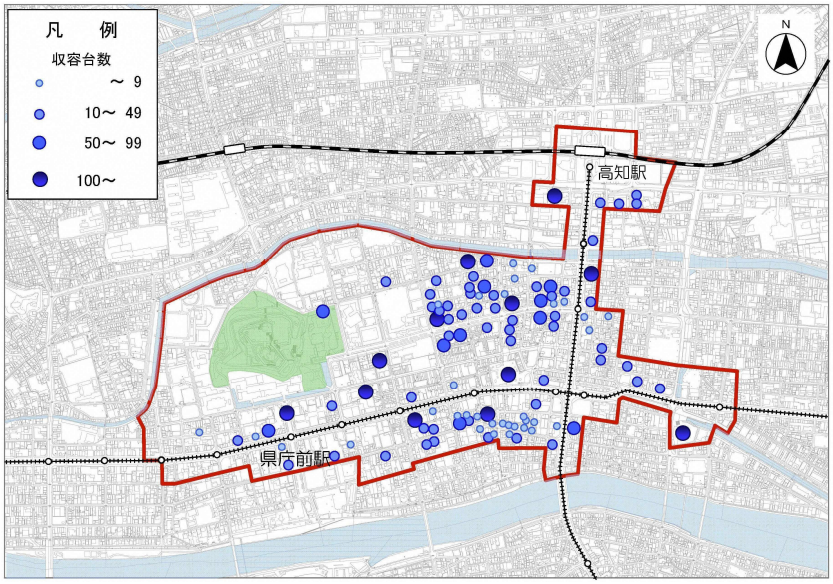
■路面電車と路線バスの乗客数の推移

※資料：高知市統計書
※乗客数は高知市外の路線の数値も含む。

②自動車

《主な時間貸駐車場の分布状況》

中心市街地には、中央公園地下駐車場（325台収容）やはりまや地下駐車場（200台収容）をはじめとする多くの駐車場が点在しているが、全ての駐車場が有料となっている。特に近年は、一時的な土地活用として小規模なコイン駐車場への転用が目立つ状況となっている。



■時間貸駐車場の分布状況

■主要駐車場一覧

主要な駐車場

収容台数　100台以上

番号	駐車場名	収容台数
1	中央公園地下駐車場	325
2	セントラルパーキング	303
3	県庁前地下駐車場	222
4	ひろめパーキング	210
5	はりまや地下駐車場	200
6	24時間パーキング追手筋	200
7	高知市文化プラザかるぽーと駐車場	200
8	トーエイパーキング	137
9	APパーク高知	136
10	畑山ビル駐車場	116
11	おクルマパークダイセイ駅前南口	110
12	土佐パーキング	100

収容台数　30～49台

番号	駐車場名	収容台数
1	廿代パーキング	48
2	アルファパーキング	46
3	帯屋町筋第3パーキング	40
4	高知タウンタワーパーキング	40
5	ブライトパークホテル	40
6	堀詰有料駐車場	39
7	おクルマパークダイセイ本町第4	37
8	おクルマパークダイセイ蓮池第1	36
9	高知城パーキング	35
10	一柳パーキング	35
11	堺町中央パーキング	35
12	あなぶきパーク	30

収容台数　50～99台

番号	駐車場名	収容台数
1	OKパーキング	86
2	高知公園駐車場	85
3	24時間パーキング県庁前	82
4	24時間パーキングピアンタ	70
5	24時間パーキング廿代	70
6	土佐亜米利加村パーキング	60
7	K's パーキング	60
8	松井パーキング	60
9	10円パーキング豊永屋	60
10	柳町スカイパーキング	54
11	中の橋駐車場	50

その他の駐車場

・収容台数　10～29台　40ヶ所

・収容台数　 1～ 9台　33ヶ所

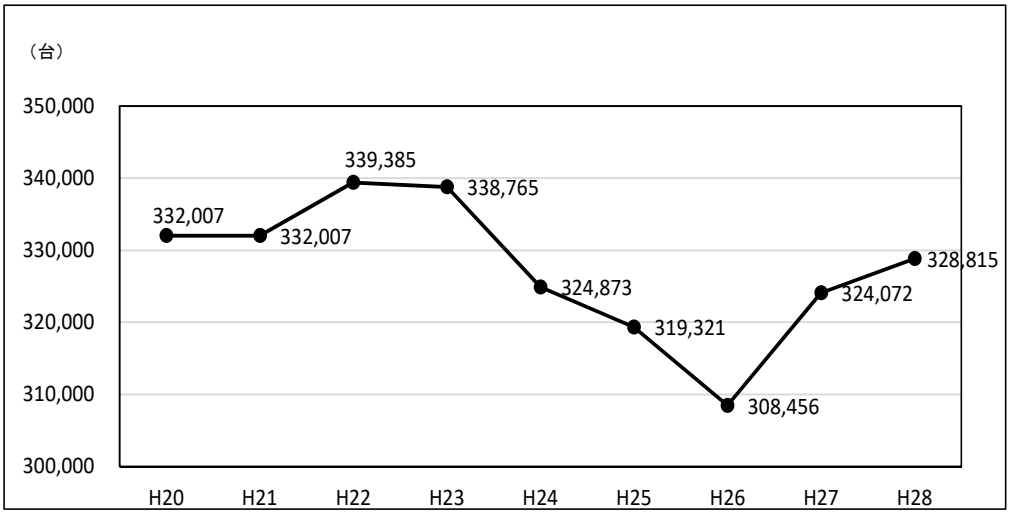
（資料：よさこいタウンHP、おクルマダイセイHP、ナイスパーキング高知HP他地図情報（平成29年１月調査））

《中央公園地下駐車場の利用状況》

平成23年までは年間利用台数約33万台で推移していたが、平成24年以降は減少し、平成26年に30万台と底を打った後、平成27年は増加に転じている。

時間別利用台数の推移を見ると、30分以上１時間未満の利用が最も多く、8,675台（全体の31.9%）であった。

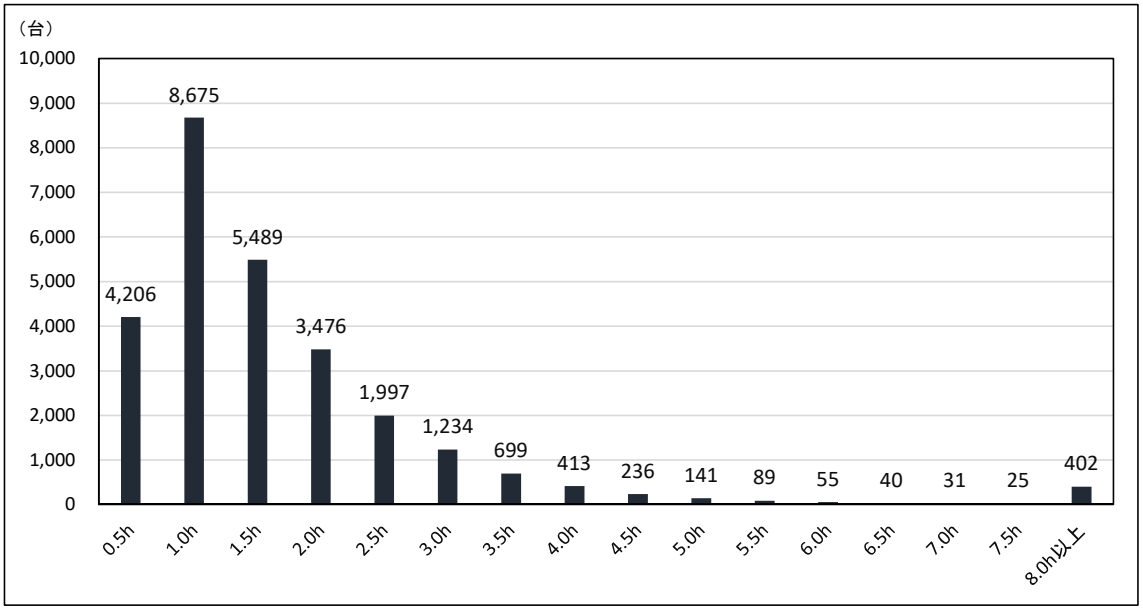
また、２時間未満の利用で21,846台、全体の80.3%を占めている。



■中央公園地下駐車場の年間利用台数

※データ：(株)高知市中心街再開発協議会

利用時間	0.5h	1.0h	1.5h	2.0h	2.5h	3.0h	3.5h	4.0h	4.5h	5.0h	5.5h	6.0h	6.5h	7.0h	7.5h	8.0h以上
台数	4,206	8,675	5,489	3,476	1,997	1,234	699	413	236	141	89	55	40	31	25	402
割合	15.5%	31.9%	20.2%	12.8%	7.3%	4.5%	2.6%	1.5%	0.9%	0.5%	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	1.5%



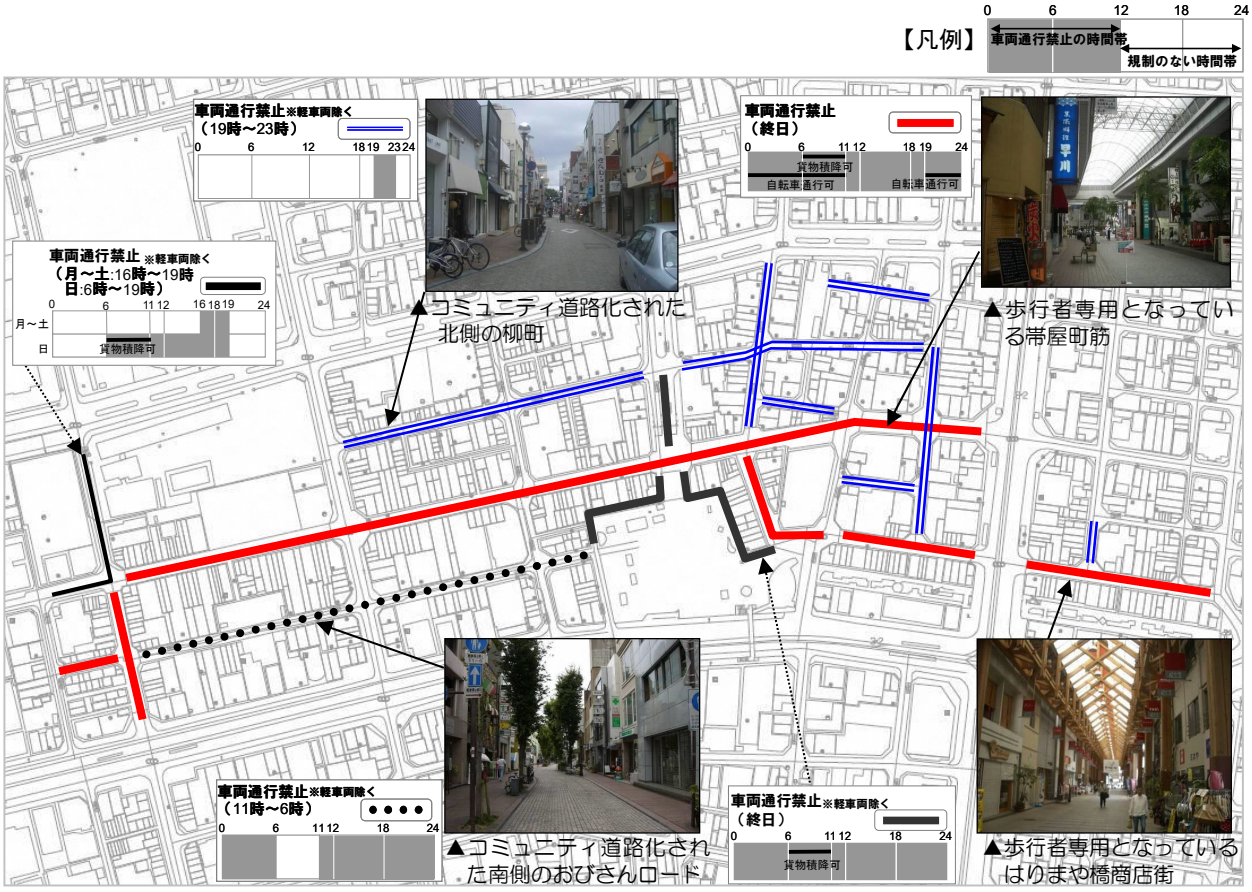
■中央公園地下駐車場の時間別利用台数（H28年1月～12月の平均値）

③歩行者・自転車

《歩行車・自転車の通行環境》

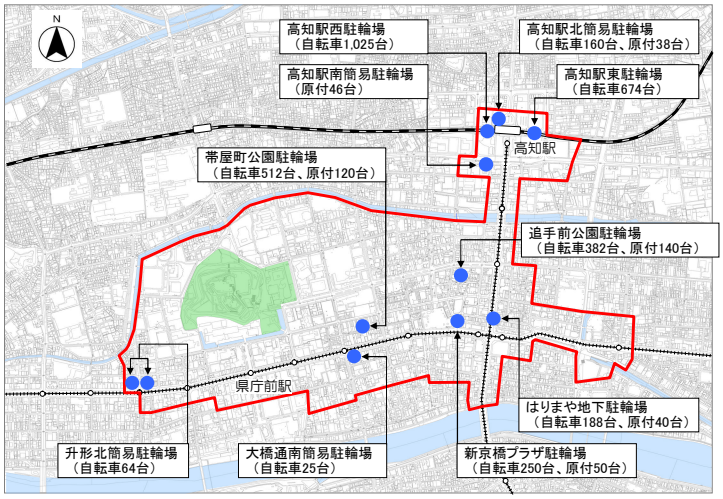
中心市街地の商店街は、アーケードの架かる帯屋町1丁目・2丁目商店街、壱番街商店街や京町・新京橋商店街、はりまや橋商店街、大橋通り商店街で、終日歩行者専用化（6時～11時は貨物運搬車両の通行が可）されている。

また、アーケード北側の柳町は19時～23時、南側のおびさんロードは0時～6時、11時～24時の間を車両進入禁止とし、時間限定で歩行者専用化されている。なお、両通りともコミュニティ道路化されており、安心して歩くことが可能となっている。



■中心部の交通規制

駐輪場は中心市街地に10カ所あるが、放置自転車等も多く、利便性の向上など、さらなる拡充が必要な状況にある。



■駐輪場の位置

《歩行者通行量》

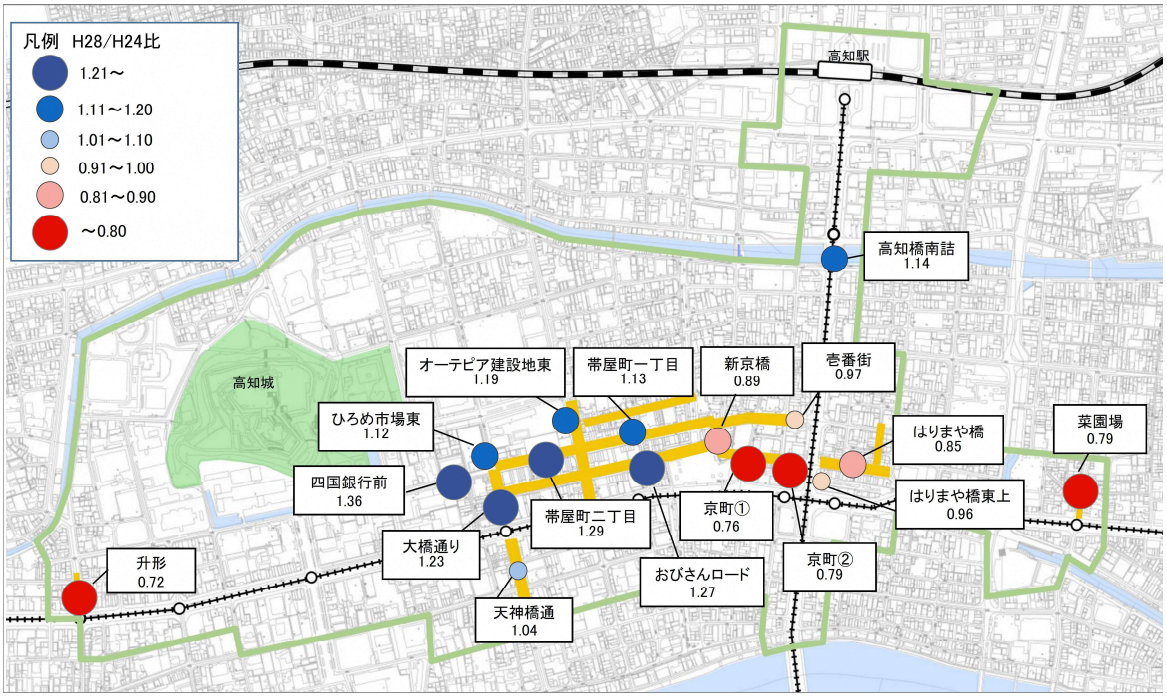
中心市街地の主要な地点（17地点）における歩行者通行量について、平成24年の前計画策定当時と平成28年の歩行者通行量の増減を比較すると、中心部では中央公園をはさんで西側エリアが増加したのに対し、東側エリアが減少していることが分かる。

帯屋町チェントロや永国寺キャンパスの整備など、中央公園から西側のエリアで主要事業が完了し、来街の促進につながったと考えられる。

■歩行者通行量

	大橋通り	帯屋町二丁目	帯屋町一丁目	おびさんロード	壱番街	新京橋	京町①	京町②	はりまや橋	はりまや橋東上	菜園場	升形	天神橋通	四国銀行前	ひろめ市場東	オーテピア建設地東	高知橋南詰
H24	19,095	27,327	33,012	6,159	15,663	12,459	14,637	15,471	12,450	6,678	1,659	2,523	6,780	8,667	16,182	8,022	5,379
H28	23,475	35,315	37,194	7,839	15,249	11,085	11,129	12,228	10,524	6,444	1,308	1,821	7,071	11,799	18,114	9,545	6,108
H28/H24	1.23	1.29	1.13	1.27	0.97	0.89	0.76	0.79	0.85	0.96	0.79	0.72	1.04	1.36	1.12	1.19	1.14

※データ：高知県商店街振興組合連合会、高知市



■歩行者通行量の増減比較（H28/H24）

(6) 地価の状況

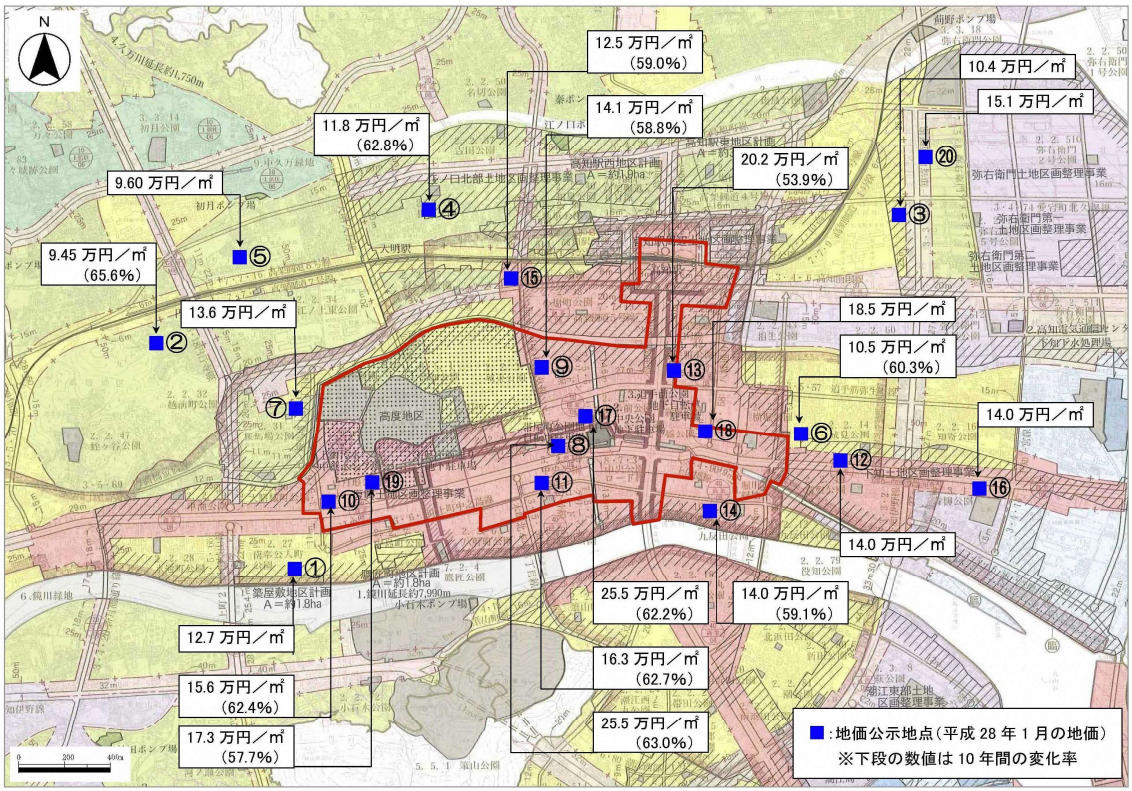
中心市街地及び周辺の地価を地価公示の経年変化を見ると、この10年間では概ね４割程度下がっている。一方、大幅な下落傾向は平成24年まで続いているが、近年は下落幅が縮小している。平成25年から平成28年の4年間の変化率を見ると、⑩升形以外は下落幅が1割を切っている状況である。

地価公示（調査日各年1月1日）　（円／㎡）

位置		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	平成19～28年変化率
■① 高知-1	高知市上町1丁目296番1	208,000	198,000	188,000	172,000	156,000	142,000	－	－	－	－	－
	高知市上町1丁目247番8	－	－	－	－	－	－	135,000	131,000	129,000	127,000	－
■② 高知-5	高知市新屋敷2丁目148番2	144,000	139,000	133,000	125,000	116,000	106,000	100,000	98,000	96,000	94,500	65.6%
■③ 高知-17	高知市杉井流字杉井流31番22外	170,000	160,000	150,000	140,000	－	－	－	－	－	－	－
	高知市杉井流408番1外	－	－	－	－	129,000	118,000	110,000	107,000	105,000	104,000	－
■④ 高知-21	高知市相模町1004番2	188,000	188,000	171,000	157,000	142,000	133,000	125,000	121,000	119,000	118,000	62.8%
■⑤ 高知-29	高知市宝町128番16	179,000	171,000	162,000	147,000	133,000	120,000	－	－	－	－	
	高知市八反町2丁目38番3	－	－	－	－	－	－	100,000	98,500	97,000	96,000	－
■⑥ 高知-36	高知市桜井町2丁目42番外	174,000	170,000	164,000	150,000	136,000	123,000	115,000	110,000	107,000	105,000	60.3%
■⑦ 高知-36	高知市桜馬場28番	215,000	207,000	198,000	180,000	168,000	157,000	207,000	198,000	180,000		
	高知市桜馬場18番	－	－	－	－	－	－	－	－	－	136,000	－
■⑧ 高知5-1	高知市本町1丁目29番外	405,000	385,000	365,000	335,000	307,000	280,000	269,000	261,000	257,000	255,000	63.0%
■⑨ 高知5-2	高知市廿代町318番	240,000	230,000	220,000	203,000	186,000	167,000	155,000	147,000	142,000	141,000	58.8%
■⑩ 高知5-3	高知市升形52番	250,000	243,000	237,000	223,000	214,000	196,000	180,000	170,000	162,000	156,000	62.4%
■⑪ 高知5-4	高知市本町2丁目104番	260,000	246,000	238,000	225,000	209,000	190,000	179,000	172,000	166,000	163,000	62.7%
■⑫ 高知5-5	高知県高知市中宝永町716番	－	230,000	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	高知県高知市中宝永町716番外	－	－	220,000	201,000	183,000	164,000	152,000	146,000	142,000	140,000	－
■⑬ 高知5-6	高知市はりまや町3丁目76番	375,000	357,000	330,000	303,000	275,000	240,000	220,000	213,000	207,000	202,000	53.9%
■⑭ 高知5-7	高知市南はりまや町2丁目131番	237,000	225,000	215,000	202,000	183,000	164,000	154,000	146,000	142,000	140,000	59.1%
■⑮ 高知5-8	高知市愛宕町1丁目206番	212,000	207,000	200,000	187,000	170,000	153,000	139,000	131,000	127,000	125,000	59.0%
■⑯ 高知5-11	高知市伊勢崎町718番	224,000	219,000	206,000	192,000	－	－	－	－	－	－	－
	高知市知寄町2丁目301番	－	－	－	－	177,000	160,000	150,000	145,000	142,000	140,000	－
■⑰ 高知5-12	高知市帯屋町1丁目170番外	410,000	385,000	360,000	330,000	301,000	277,000	264,000	258,000	256,000	255,000	62.2%
■⑱ 高知5-13	高知市はりまや町2丁目178番	250,000	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	高知市はりまや町1丁目333番1	－	270,000	265,000	253,000	234,000	216,000	200,000	192,000	188,000	185,000	－
■⑲ 高知5-14	高知市本町5丁目52番	300,000	275,000	255,000	230,000	212,000	196,000	186,000	180,000	175,000	173,000	57.7%
■⑳ 高知5-15	高知市鷹匠町1丁目50番	250,000	235,000	221,000	202,000	－	－	－	－	－	－	－
	高知市高ソネ2202番外	－	－	－	－	181,000	162,000	154,000	152,000	151,000	151,000	－

資料：国土交通省

■中心市街地と周辺の地価



■中心市街地と周辺の地価

[3] 地域住民等のニーズの把握・分析

中心市街地に関する来街者調査

中心市街地での行動特性及び中心市街地に関する印象の変化、市民ニーズ、市外在住者から見た中心市街地の印象等を把握する「中心市街地に関する来街者調査」を実施した。

■調査概要

調査手法	街頭調査	
調査対象	中心市街地への来街者（子どもを除く）	
調査時期	平成28年12月16日(金)、18日(日)（2日間）	
調査人数	12月16日(金)　①帯屋町二丁目：102人　②新京町：104人 12月18日(日)　①帯屋町二丁目：　54人　②新京町：51人	合計： 311人

1)　回答者の属性

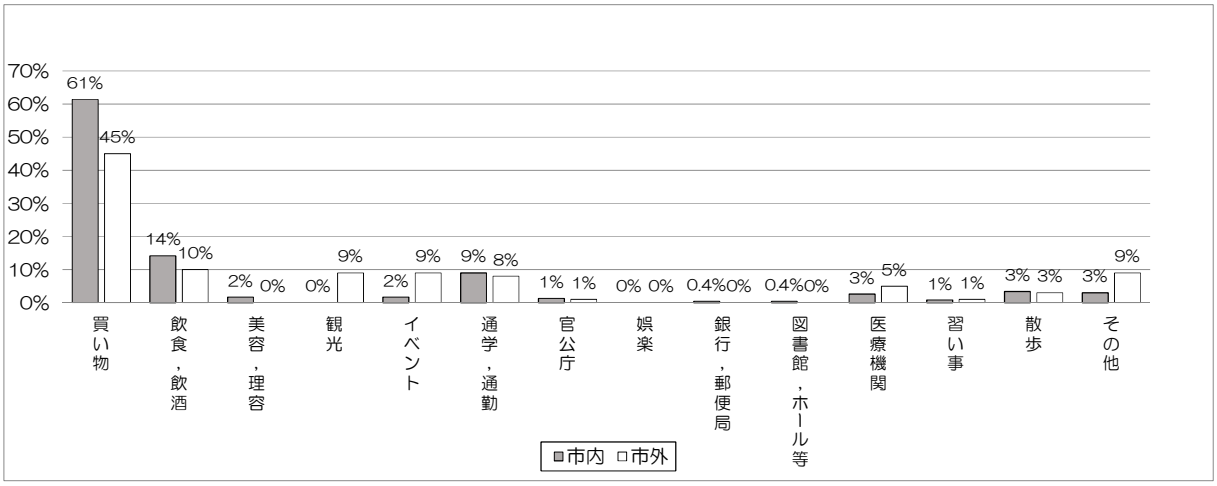
	回答者数（人）	割合（%）
性別		
男性	94	30.2
女性	217	69.8
計	311	100.0
年齢別		
10代	36	11.6
20代	36	11.6
30代	32	10.3
40代	42	13.5
50代	45	14.5
60代	65	20.9
70代以上	55	17.7
計	311	100.0
地域別		
市内来街者	233	74.9
市外来街者	78	25.1
計	311	100.0

※割合の合計は端数処理の関係で100%にならない。

2)　中心市街地との関わり

2-1　中心市街地に出かける目的

市内来街者の60%以上が「買い物」が目的であり、「買い物」と「飲食・飲酒」を合わせると75%を占めている。市外来街者も「買い物」が45%と最も多く、次いで「飲食・飲酒」、「観光」、「イベント」が上位を占めている。

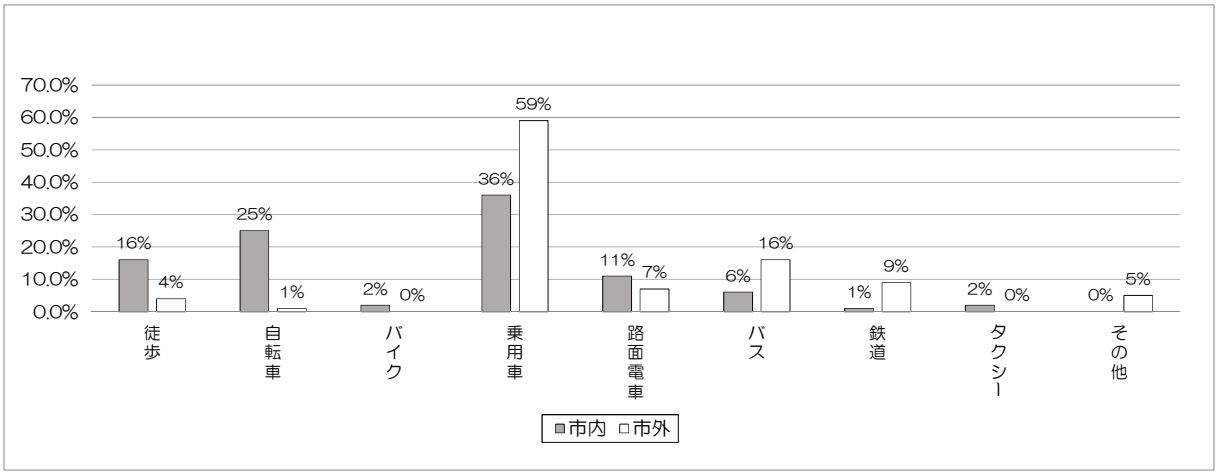


■中心市街地に出かける目的

2-2　中心市街地に出かける交通手段

市内来街者・市外来街者ともに乗用車利用が最も多くなっている。

次いで多かったのは、市内来街者では自転車、徒歩であり、市外来街者はバス、鉄道、路面電車の順で、市外来街者の3割以上の人が公共交通機関を利用している。

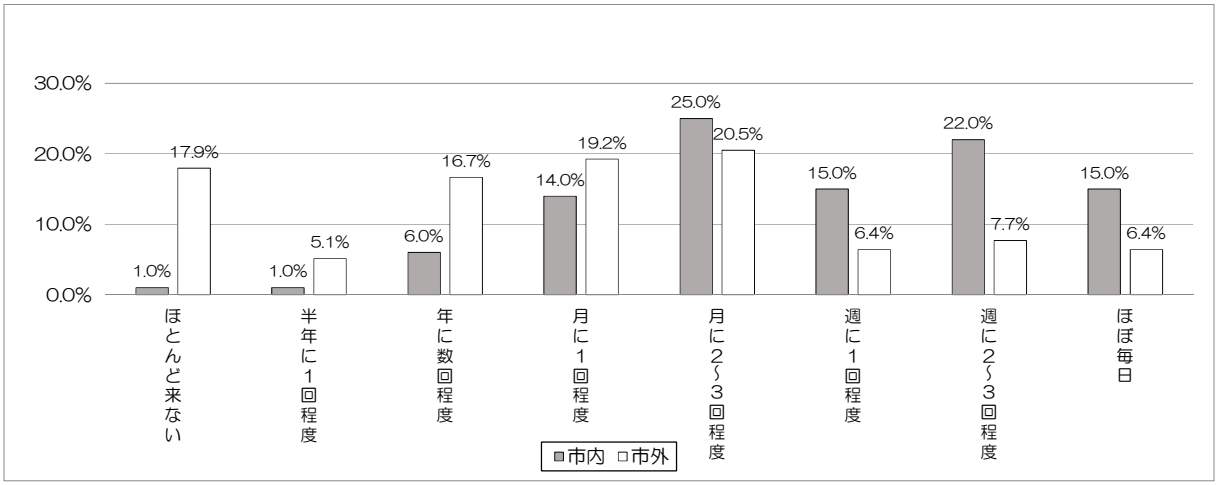


■中心市街地に出かける交通手段

2-3　中心市街地に出かける回数

市内・市外来街者とも「月に2～3回程度」が最も多い。

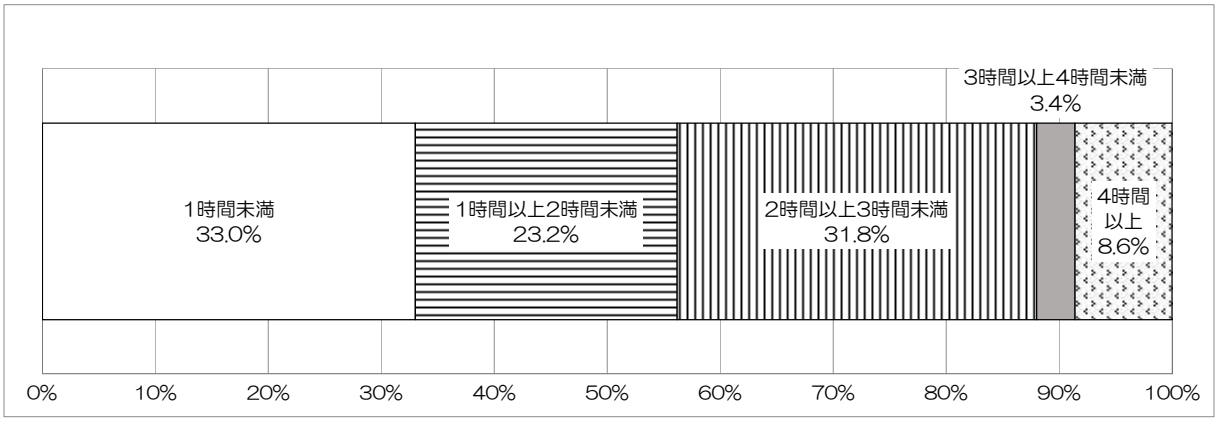
市内来街者の半数以上が週に1回程度以上出かけている。



■中心市街地に出かける回数

2-4　中心市街地に出かけた場合の滞在時間

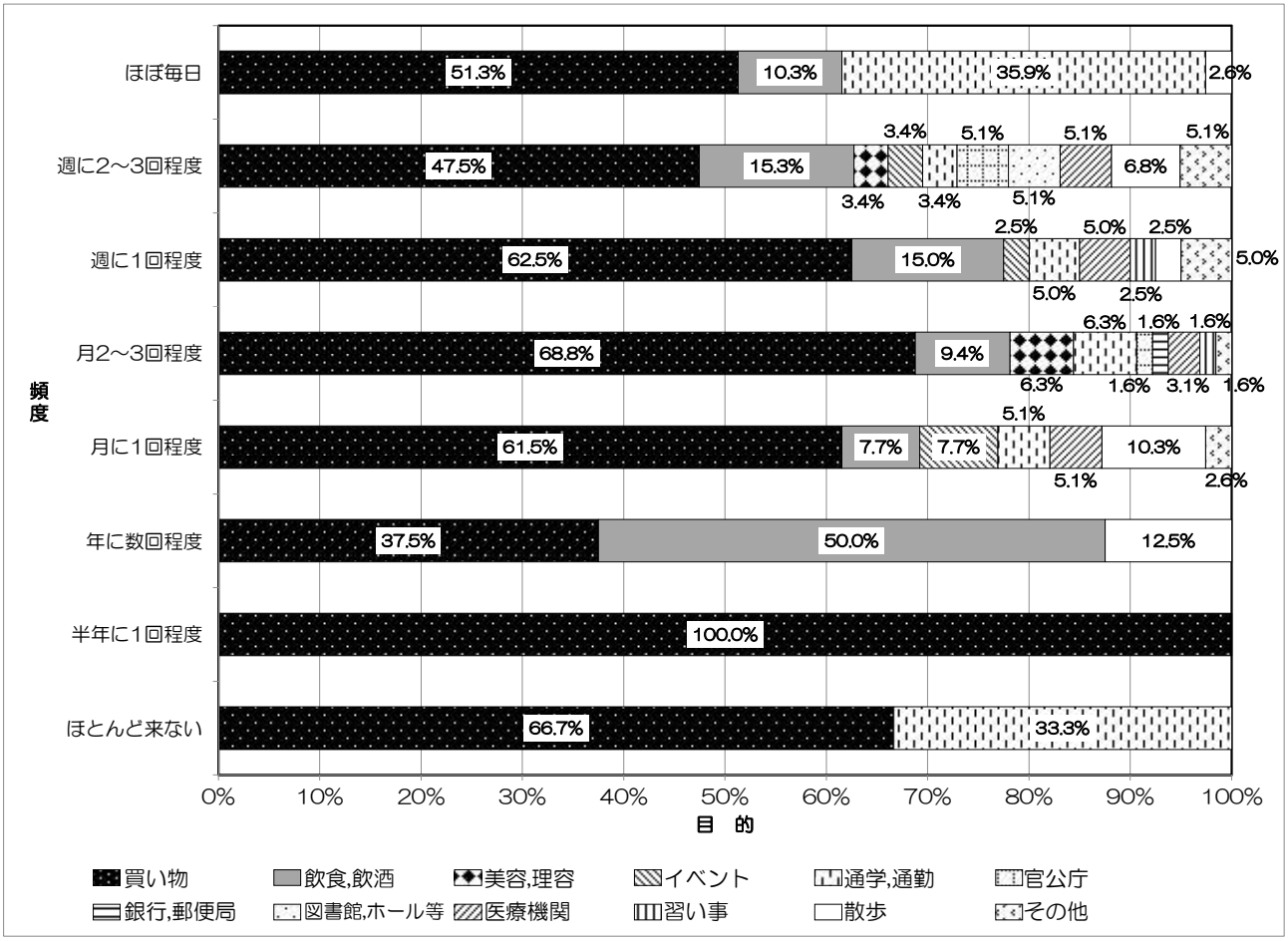
市内来街者の9割近くが滞在時間は3時間未満と回答しており、なかでも1時間未満の滞在が最も多かった。



■中心市街地に出かけた出かけた場合の滞在時間

2-5　中心市街地に出かける頻度別の来街目的（市内来街者）

来街目的は全体的に「買い物」が多い。唯一「年に数回程度」と回答した人の来街目的が「飲食・飲酒」が50.0%と最も多く「買い物」を上回っている。また、「ほぼ毎日」来街する人は「通学・通勤」の割合も高い。

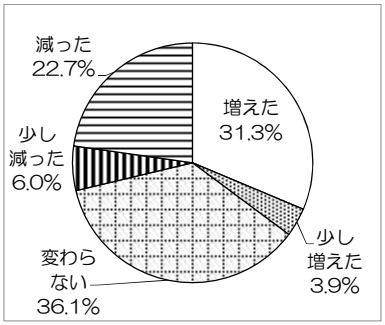


■中心市街地に出かける回数別の目的（市内来街者のみ）

2-6　4～5 年前と比べた中心市街地に出かける頻度の増減(市内来街者のみ)

「変わらない」が36.1%と最も多い。

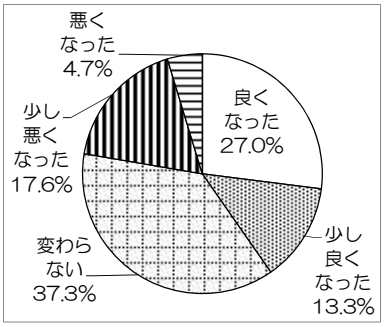
「減った」と「少し減った」の合計が28.7%に対して、「増えた」と「少し増えた」の合計は35.2%となっており、出かける回数は増加傾向にある。



3)　中心市街地のあり方

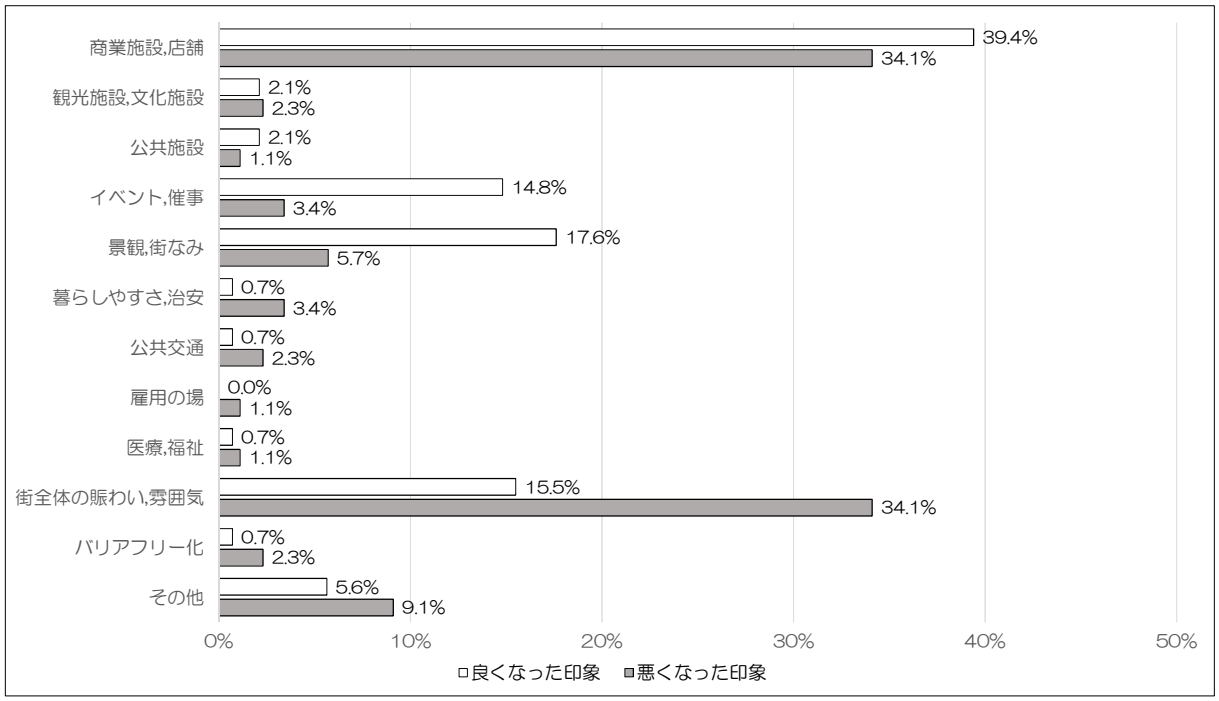
3-1　4～5 年くらい前に来街した際と比べた中心市街地の印象(市内来街者のみ)

「変わらない」が37.3%と最も多いが、「良くなった」と「少し良くなった」の合計は40.3%で、「悪くなった」と「少し悪くなった」の合計は22.3%と、印象は良くなっている傾向にあると見られる。



3-2　良くなった印象の機能・施設、悪くなった印象の機能・施設（市内来街者のみ）

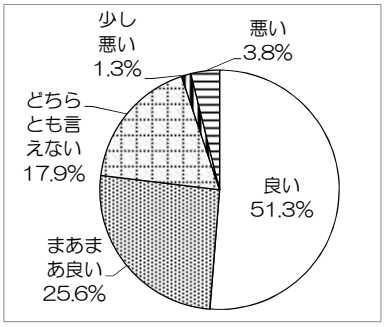
「商業施設、店舗」については、良くなった(39.4%)、悪くなった(34.1%)、という両方の意見がある。「イベント・催事」(14.8%)、「景観・街なみ」(17.6%)が高く、「街全体の賑わい、雰囲気」に関しては良くなった印象が15.5%であったものの、悪くなった印象が上回り34.1%であった。



■良くなった印象の機能・施設、悪くなった印象の機能・施設（市内来街者のみ）

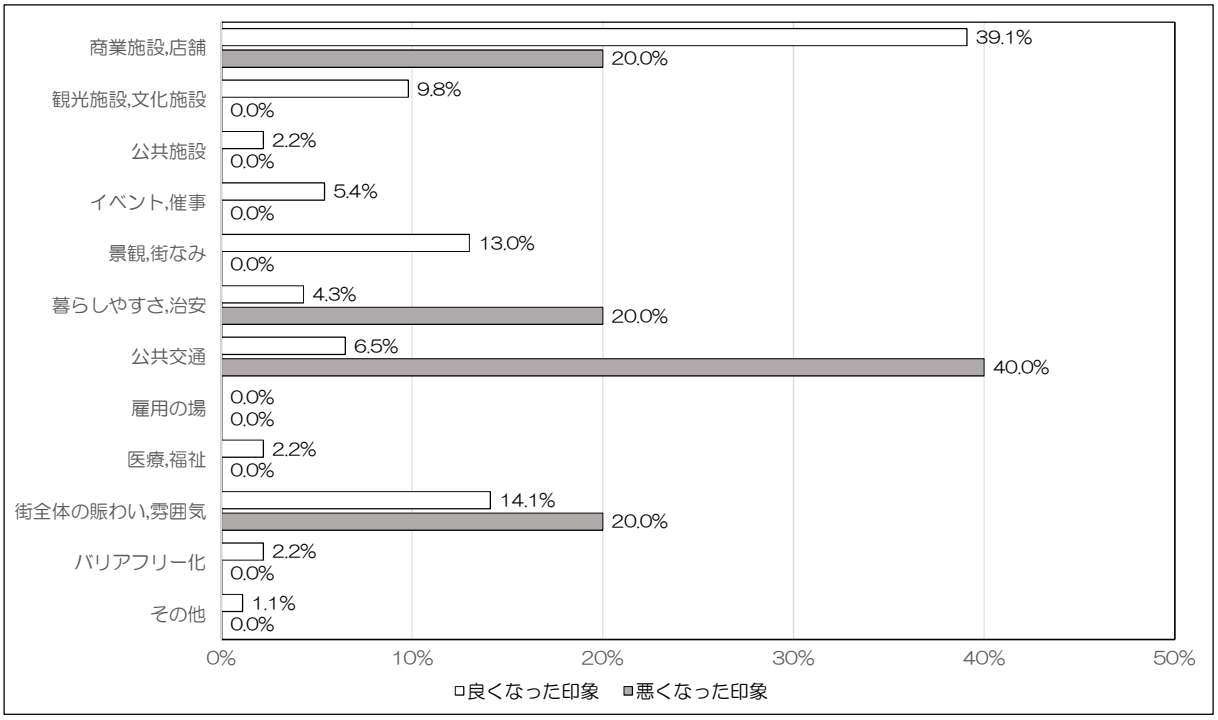
3-4　市外在住地と比べた中心市街地の印象(市外来街者)

「良い」(51.3%) と「まあまあ良い」(25.6%)を合わせると76.9%を占め、「悪い」(3.8%)「少し悪い」(1.3%)は合わせて5.1%と、良い印象の傾向となっている。



3-5　良いと思うところ、悪いと思うところ（市外来街者）

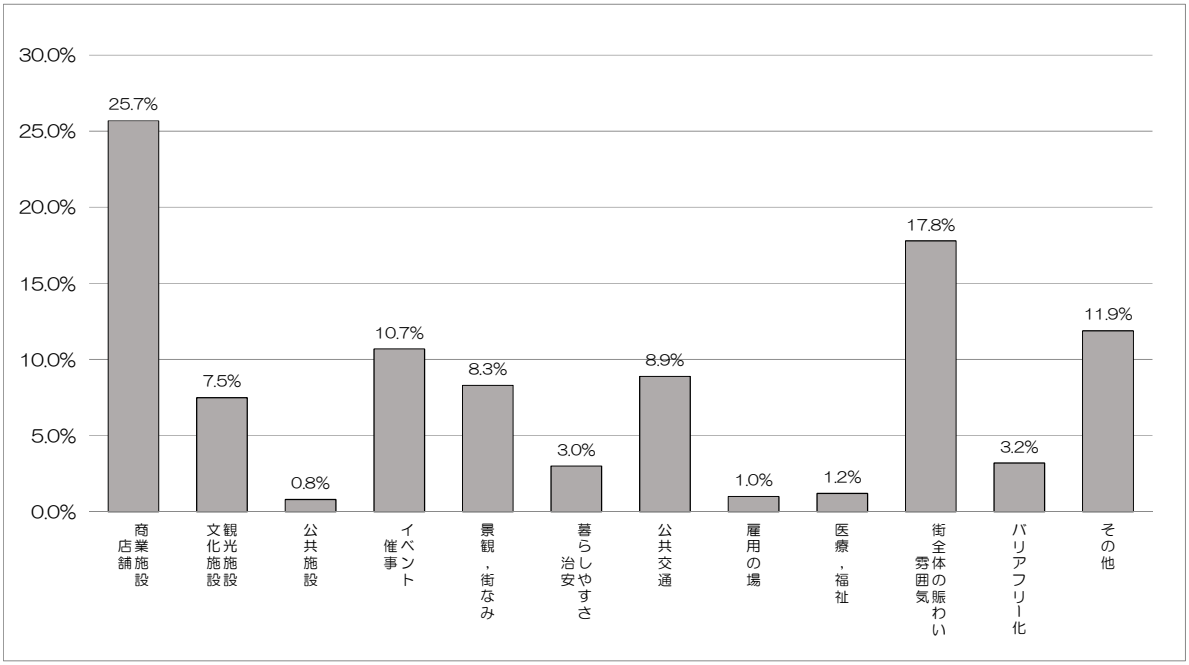
良いと思うところは、「商業施設、店舗」が最も多く、悪いと思うところでは「公共交通」が多くなっており、市外からの公共交通の利便性などを求めていると推察される。



■良いと思うところ、悪いと思うところ（市外来街者）

3-6　中心市街地で充実してほしい機能・施設（全体集計）

「商業施設、店舗」が最も多く25.7%であり、次いで「街全体の賑わい、雰囲気」が17.8%となっている。次いで「その他」の11.9%となっているが、なかでも駐車場の充実を求める意見が多くなっている。

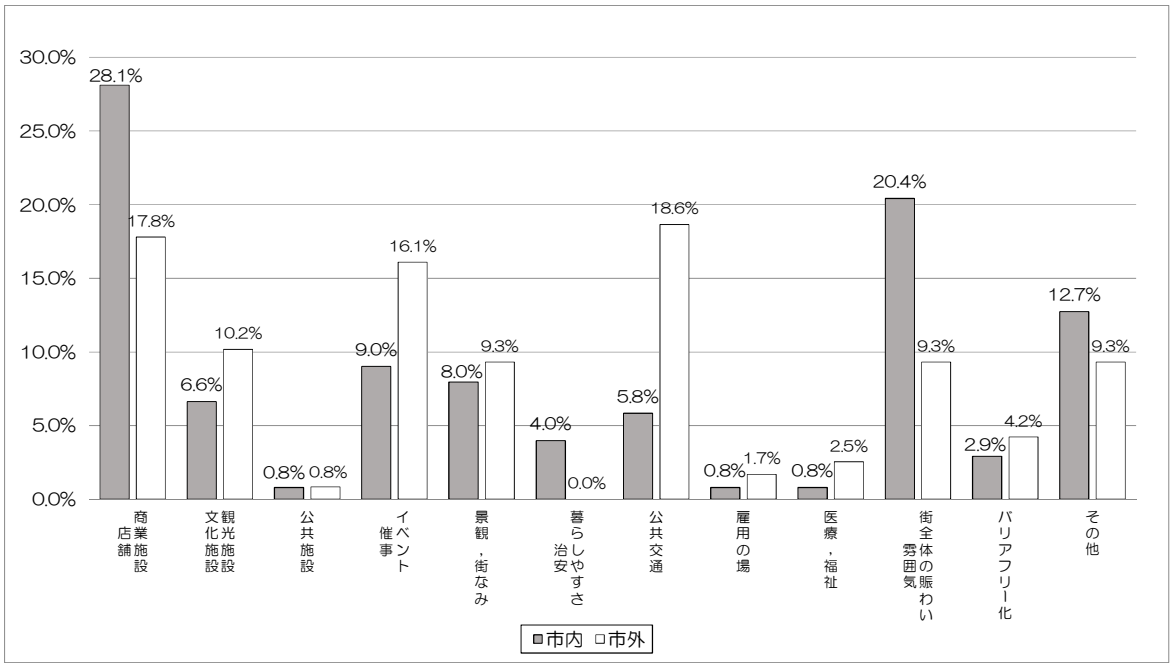


■中心市街地で充実してほしい機能・施設（全体集計）

3-7　中心市街地で充実してほしい機能・施設（市内来街者・市外来街者別）

市内来街者では「商業施設・店舗」(28.1%) や「街全体の賑わい、雰囲気」(20.4%)などの充実を求める意見が多い。

市外来街者では、「公共交通」(18.6%)、「商業施設・店舗」(17.8%)、「イベント・催事」(16.1%) などの割合が高くなっている。



■中心市街地で充実してほしい機能・施設（市内来街者・市外来街者別）

中心市街地に関する市民ニーズ調査

中心市街地での行動特性及び中心市街地に関する印象、市民ニーズ、将来イメージ等を把握するため「市民ニーズ調査」を実施した。

■調査概要

調査手法	郵送法
調査対象	20歳以上の市民3,000人を無作為抽出
調査時期	平成28年12月5日(月)～26日(月)
回収結果	有効回収数：1,153通　回収率：38.4%

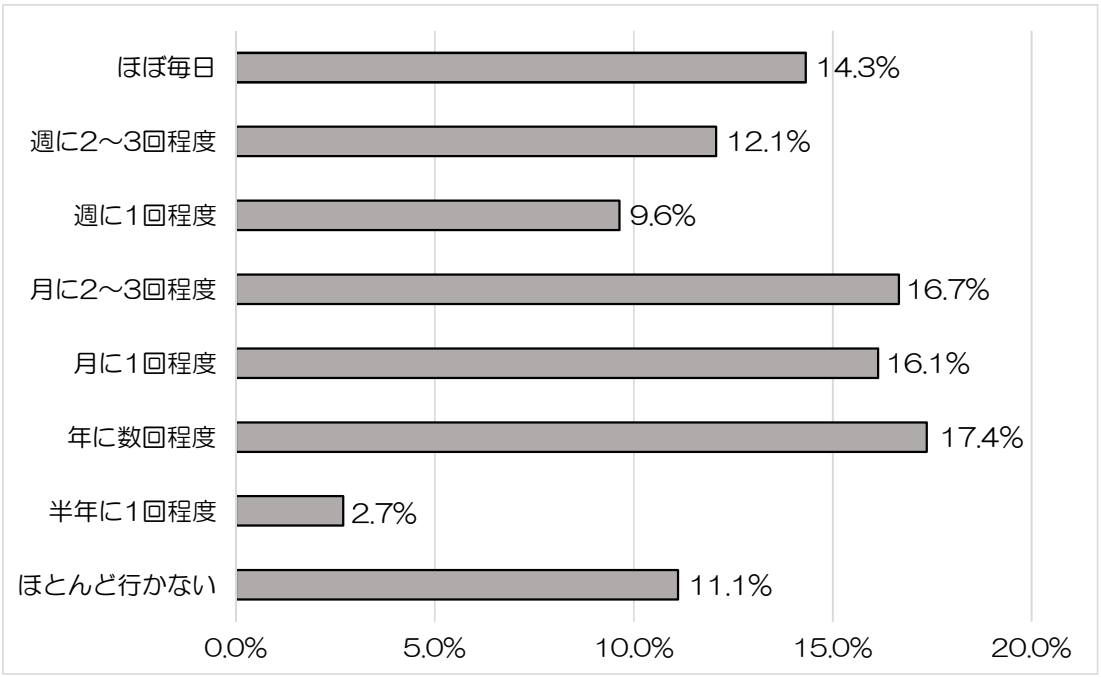
1)　回答者の属性

	回答者数（人）	割合（%）
性別		
男性	416	36.1
女性	737	63.9
計	1,153	100.0
年齢別		
20代	62	5.4
30代	137	11.9
40代	186	16.1
50代	186	16.1
60代	286	24.8
70代以上	296	25.7
計	1,153	100.0
居住地域		
中心市街地	86	7.5
中心市街地以外	1,067	92.5
計	1,153	100.0

2)　中心市街地との関わり

2-1　中心市街地へ出かける頻度

「半年に1回程度」が全体の2.7%と少ないが、その他は行動特性に偏りが少ない。

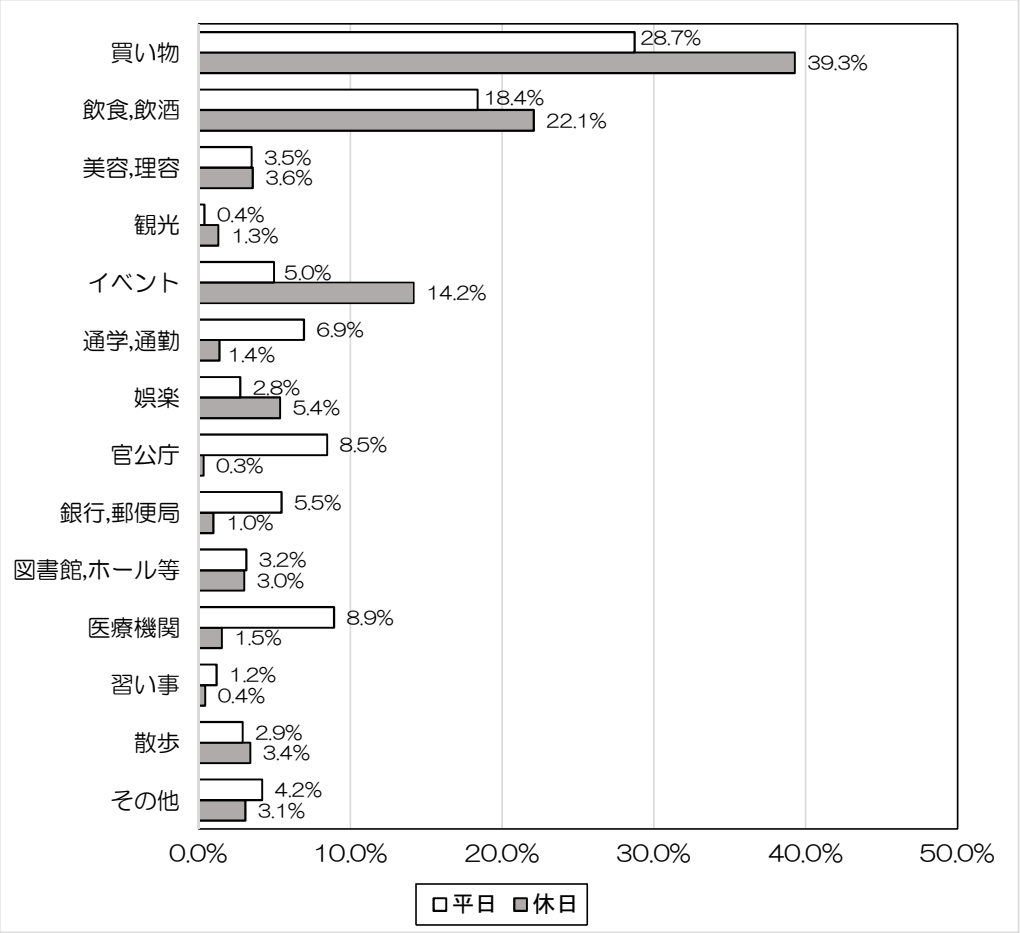


■中心市街地へ出かける頻度

2-2　中心市街地に出かける目的

「買い物」の目的が平日(28.7%)、休日(39.3%)と最も多い。次いで「飲食・飲酒」の目的が平日(18.4%)、休日(22.1%)となっている。

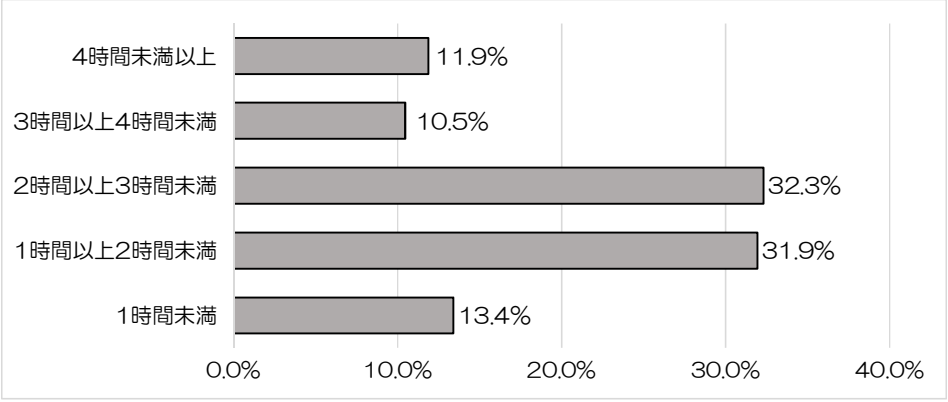
「通学・通勤」、「官公庁」、「医療機関」の目的は平日の方が多く、「買い物」、「飲食・飲酒」、「イベント」、「娯楽」の目的は休日の方が多いことから、平日は用務のために、休日は楽しむことを目的に来街していることが伺える。



■中心市街地へ出かける目的（平日・休日比較）

2-3　中心市街地での滞在時間

「2時間以上3時間未満」(32.3%)が最も多く、僅かな差で「1時間以上2時間未満」(31.9%)が次いでいる。

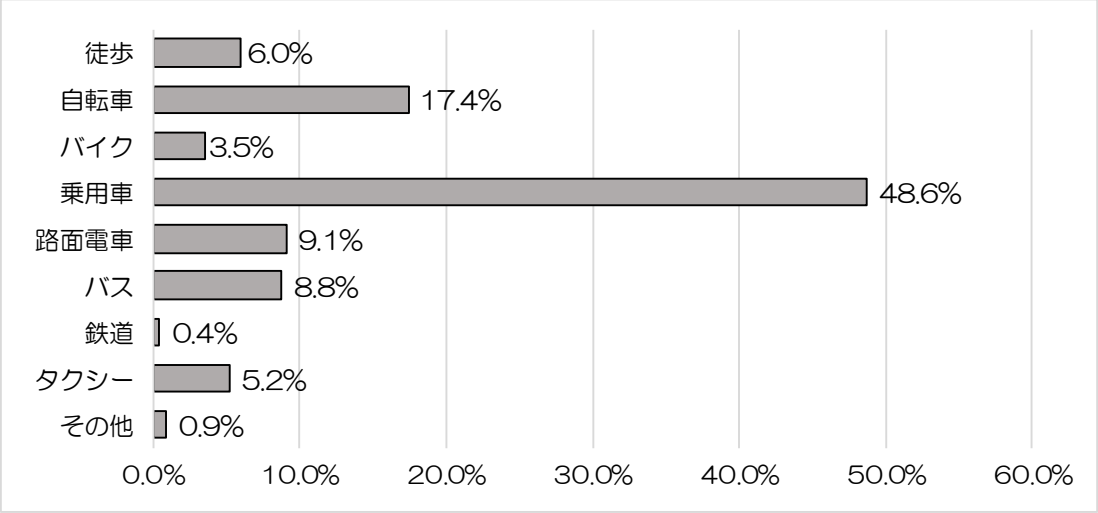


■中心市街地での滞在時間

2-4　中心市街地に出かける交通手段

「乗用車」の利用割合が48.6%と最も多い。次いで「自転車」利用が17.4%となっている。

公共交通機関については、タクシーも含めると23.5%となり、約4分の1の人が利用している。



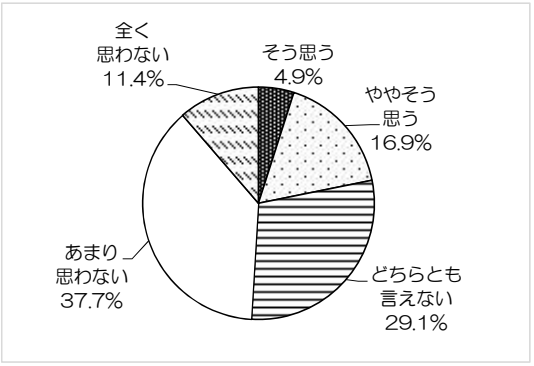
■中心市街地に出かける交通手段

3)　中心市街地のあり方

3-1　4～5 年くらい前と比較して、中心市街地はまた訪れたいと思う、魅力的な場所になったと思うか

「あまり思わない」が37.7%と最も多く、「全く思わない」(11.4%)と合わせると、「思わない」という傾向が約半数を占めている。

一方、「思う」という傾向は、「そう思う」(4.9%)と「ややそう思う」(16.9%)を合わせても2割程度と少ない。

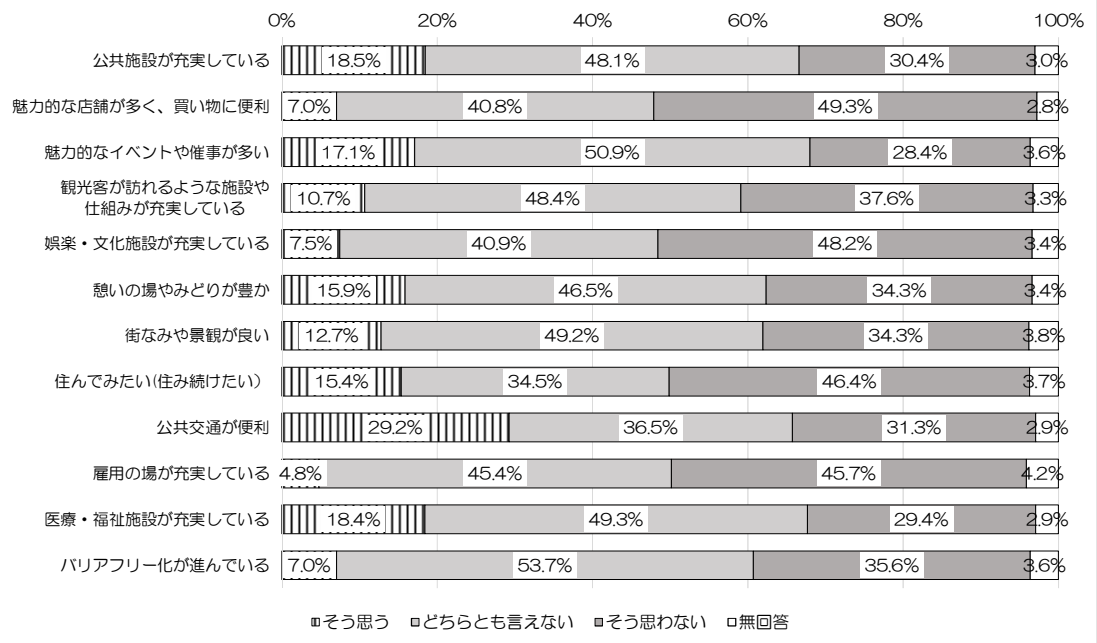


3-2　中心市街地についての印象

12項目全てで「そう思わない」が「そう思う」を上回っている。

「そう思わない」の割合が高かったのは、「魅力的な店舗が多く、買い物に便利」、「娯楽・文化施設が充実している」、「住んでみたい（住み続けたい）」、「雇用の場が充実している」の4項目であり、中心市街地においてこれらの項目が不足していることが伺える。

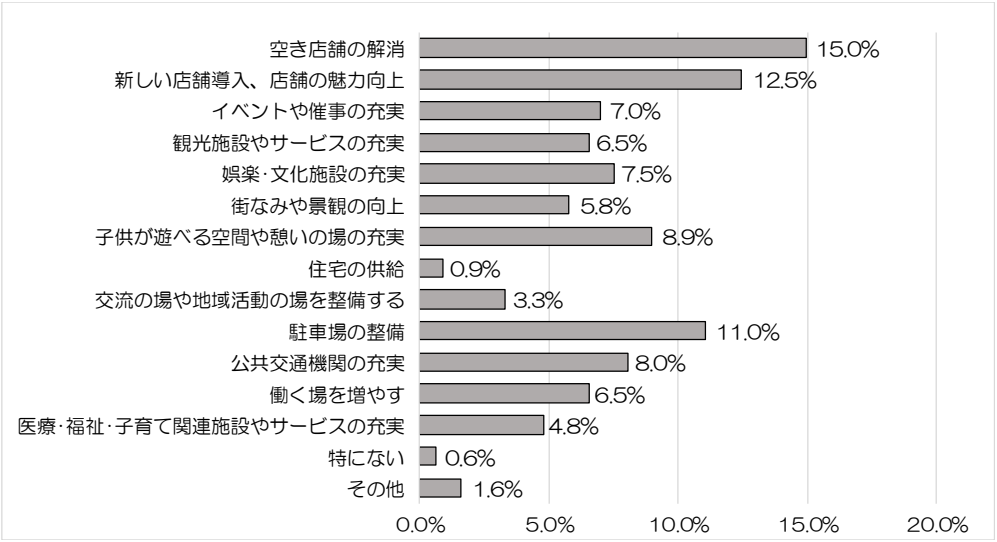
一方、「そう思う」の割合が比較的高かったのは、「公共交通が便利」、「公共施設が充実している」「医療・福祉施設が充実している」であった。



■中心市街地についての印象

3-3　中心市街地を活性化していくために必要な取組

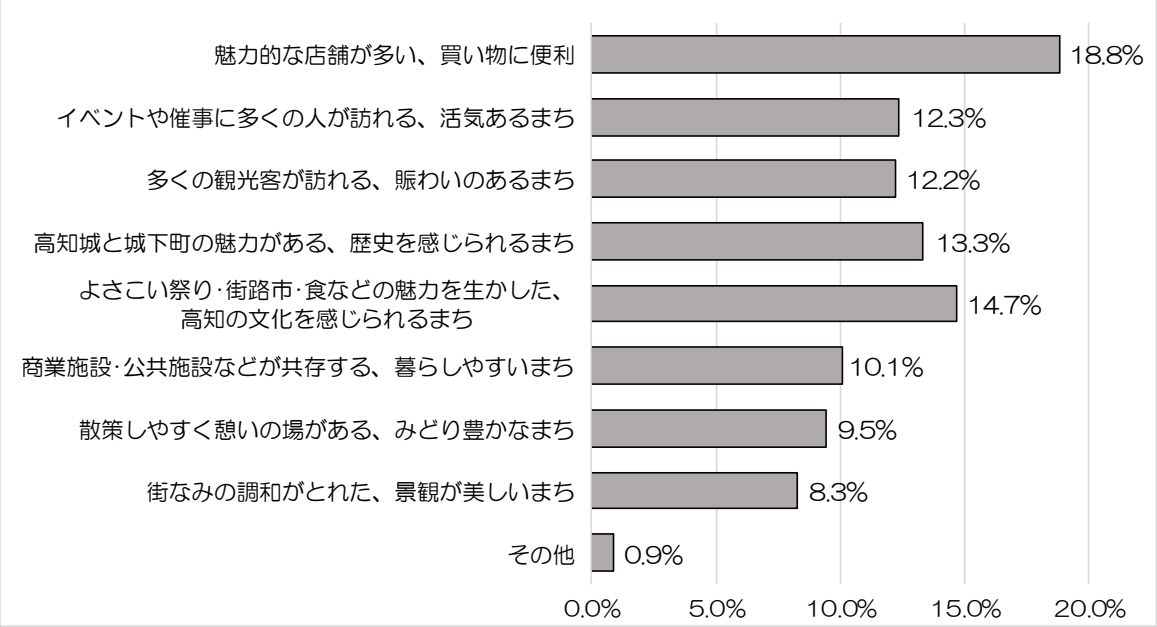
「空き店舗の解消」（15.0%）、「新しい店舗の導入、店舗の魅力向上」（12.5%）、「駐車場の整備」（11.0%）が必要な取組であると求められている。一方、「住宅の供給」が0.9%と最も少なかった。



■中心市街地を活性化していくために必要な取組

3-4　中心市街地の将来のイメージ

「魅力的な店舗が多い、買い物に便利」が18.8%と2割近くを占めていた。次いで「よさこい祭り・街路市・食などの魅力を生かした、高知の文化が感じられるまち」(14.7%)、「高知城と城下町の魅力がある、歴史を感じられるまち」(13.3%)、「イベントや催事に多くの人が訪れる、活気あるまち」(12.3%)、「多くの観光客が訪れる、賑わいのあるまち」(12.2%)がほぼ同じ割合で続いていた。中心市街地には商業、観光、歴史、文化などさまざまなイメージがあると言える。



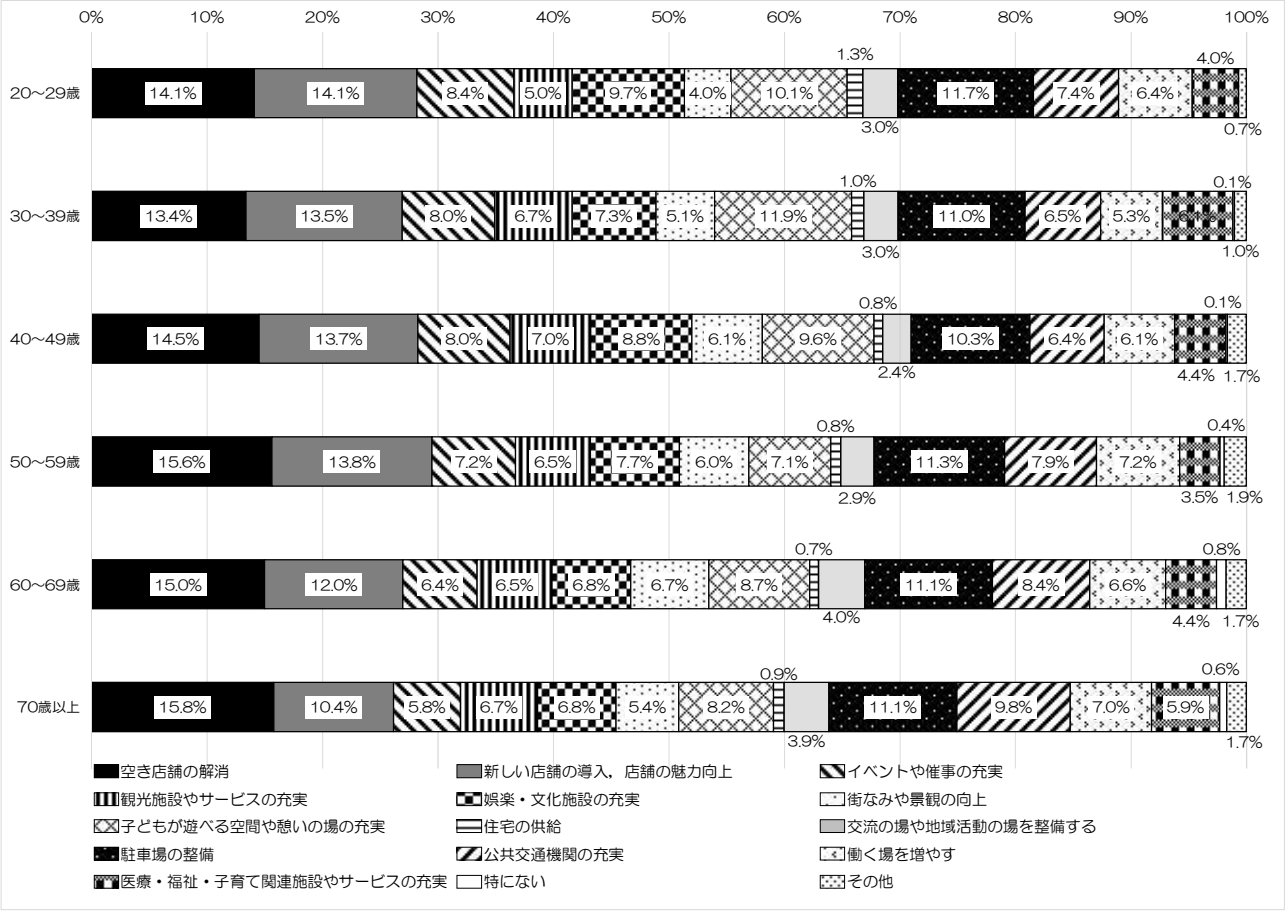
■中心市街地の将来のイメージ

3-5　年齢構成別に必要な取組

(a) 年齢構成別に必要な取組

すべての年代においてほぼ同様の傾向が示された。「空き店舗の解消」の割合が最も高く、次いで「新しい店舗の導入、店舗の魅力向上」と「駐車場の整備」を上位に挙げている。

30～49歳では、「子どもが遊べる空間や憩いの場の充実」を上位に挙げており、必要と感じていることが伺える。

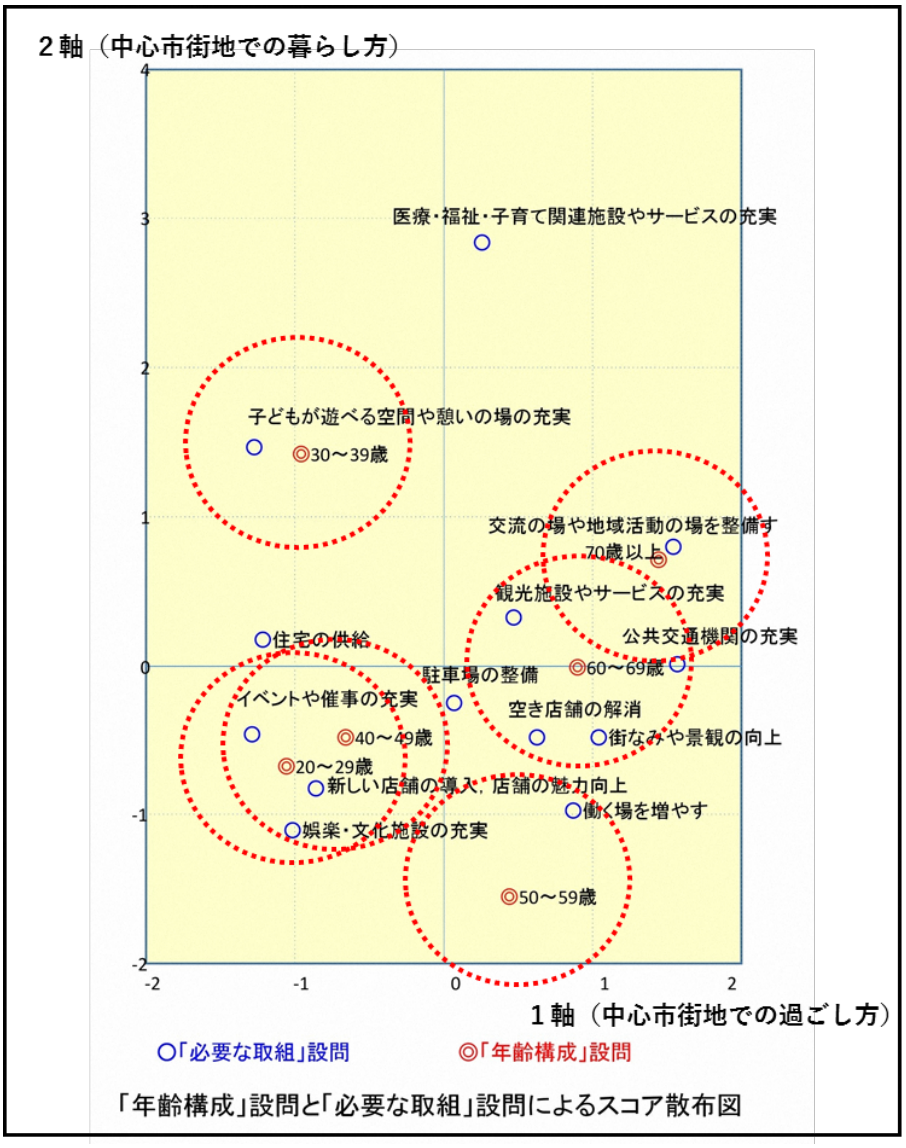


■年齢構成別に必要な取組

(b) コレスポンデンス分析※1

コレスポンデンス分析から伺える傾向

年齢層	必要と感じている取組
20代、40代	「新しい店舗の導入、店舗の魅力向上」 「娯楽・文化施設の充実」 「イベントや催事に多くの人が訪れる、活気あるまち」
30代	「子どもが遊べる空間や憩いの場の充実」
50代	「働く場を増やす」
60代	「街なみや景観の向上」 「空き店舗の解消」 「公共交通機関の充実」 「観光施設やサービスの充実」
70代以上	「公共交通機関の充実」 「交流の場や地域活動の場を整備する」



■年齢構成別に必要な取組（コレスポンデンス分析）

※1：コレスポンデンス分析
アンケートのクロス集計結果を散布図で視覚的に表現したもの。
相対的に見て、それぞれの選択肢の関連度が強い要素同士は近くに、弱い要素同士は遠くにプロットされる。

3-6　年齢構成別の将来イメージ

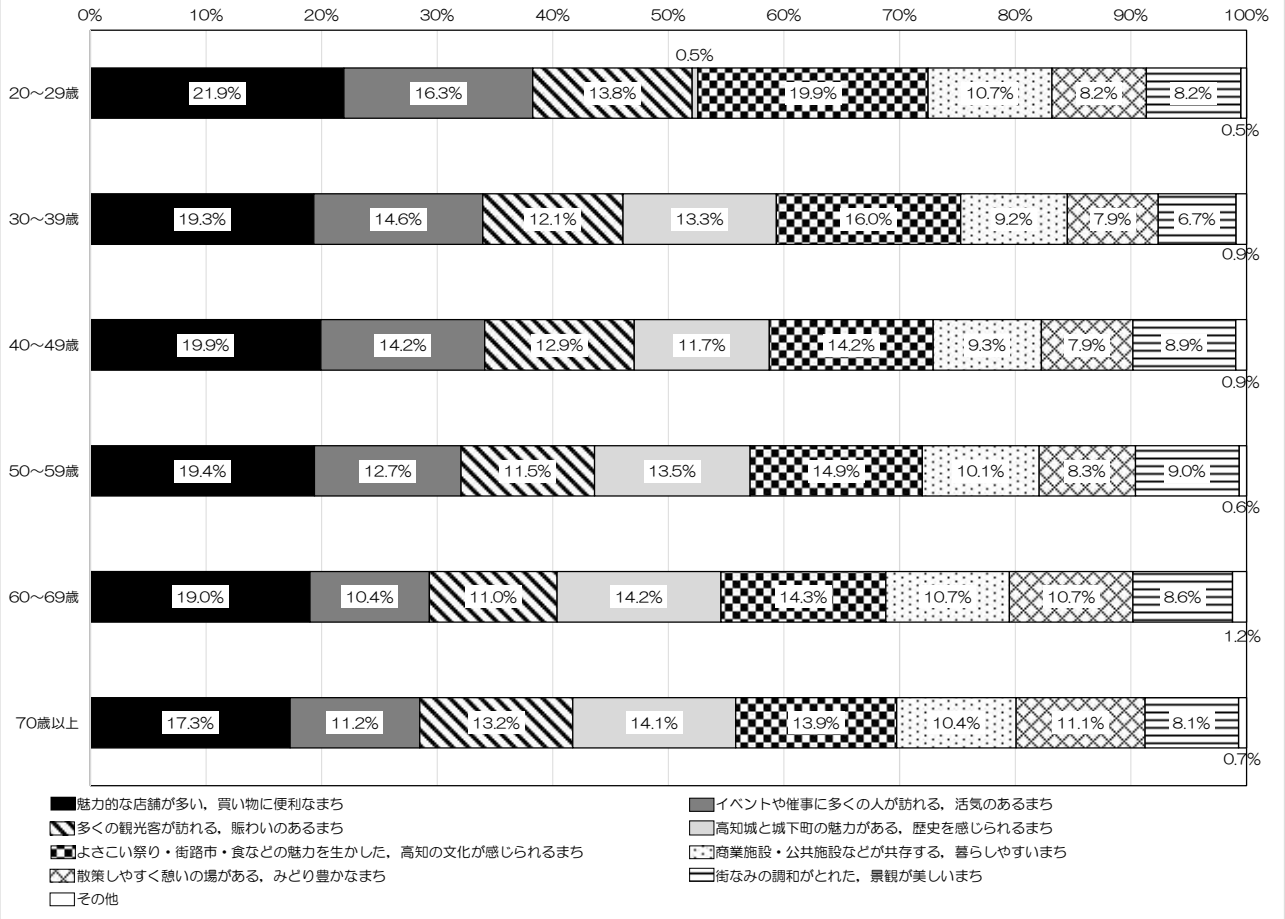
(a) 年齢構成別の将来イメージ

全ての年齢層で「魅力的な店舗が多い、買い物に便利なまち」のイメージが最も多い。

20～49歳は「よさこい祭り・街路市・食などの魅力を生かした、高知の文化が感じられるまち」と「イベントや催事に多くの人が訪れる、活気あるまち」が続いている。

50歳以上は「よさこい祭り・街路市・食などの魅力を生かした、高知の文化が感じられるまち」 と「高知城と城下町の魅力がある、歴史を感じられるまち」を挙げている。

60歳以上では「イベントや催事に多くの人が訪れる、活気あるまち」 が少なくなっている。

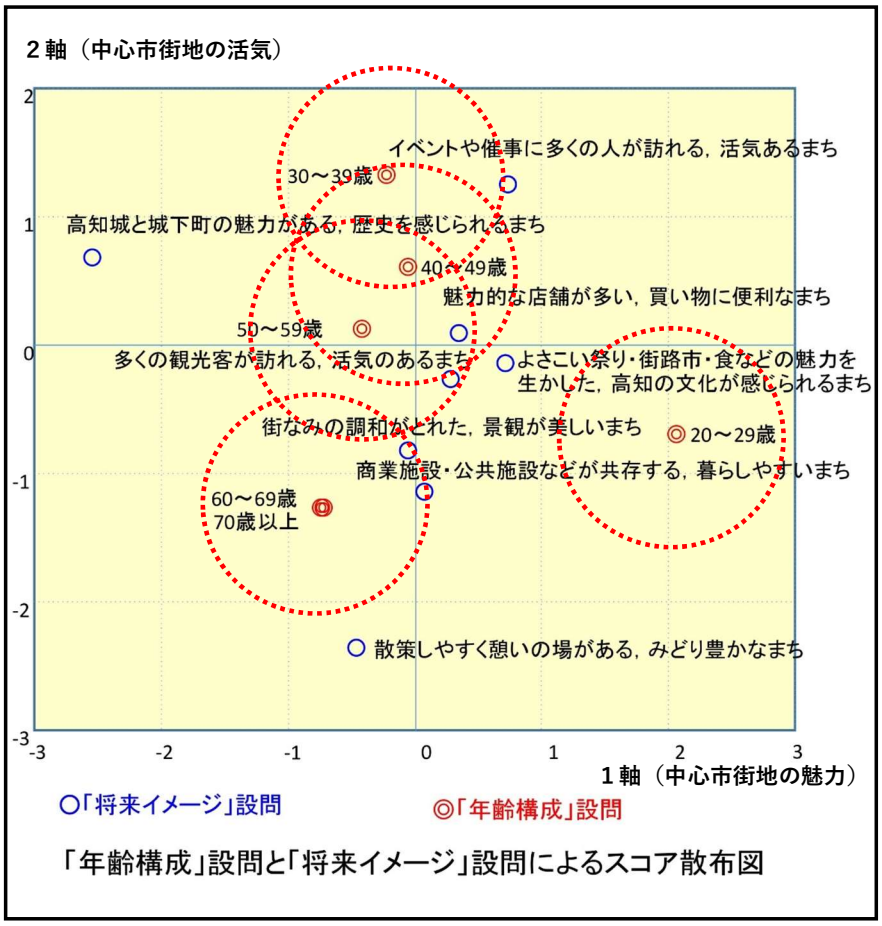


■年齢構成別の将来イメージ

(b) コレスポンデンス分析

コレスポンデンス分析から伺える傾向

年齢層	中心市街地に対する将来イメージ
20代	特に傾向なし
30代	「イベントや催事に多くの人が訪れる、活気あるまち」
40代、50代	「魅力的な店舗が多い、買い物に便利なまち」 「多くの観光客が訪れる、賑わいのあるまち」
60代	「散策しやすく憩いの場がある、みどり豊かなまち」
70代以上	「商業施設・公共施設などが共存する、暮らしやすいまち」 「街なみの調和がとれた、景観が美しいまち」



■年齢構成別の将来イメージ

3-7　自由意見から必要と思われる取組の傾向について

○特に多い意見

① 駐車場の整備」が120／584あり、20.5%と最も多い。

- 駐車料金を安くして欲しい
- 日曜・祭日の無料駐車場の充実（県庁、市役所前地下駐車場の無料化）

② 「新しい店舗の導入、店舗の魅力向上」が86／584あり、14.7%と次に多い。

- 食や歴史など一つのテーマを商店街の店舗が共有し店つくりを行うことが重要では。
- ファッションビルやデパートを作ってくれたら、若い人もいきたくなると思う。

③ 公共交通機関の充実が60／584あり、10.3%とその次に多い。

- バスセンターを中心部に設置し、路線、高速バスの乗り入れができるようにしてほしい。
- 公共の乗り物、特にバスをもっと増やして、老人でも買い物に便利にしていただきたい。

[4] 前計画の実施状況と取組の評価

(1) 前計画の概要

①　計画期間

平成24年12月～平成30年3月

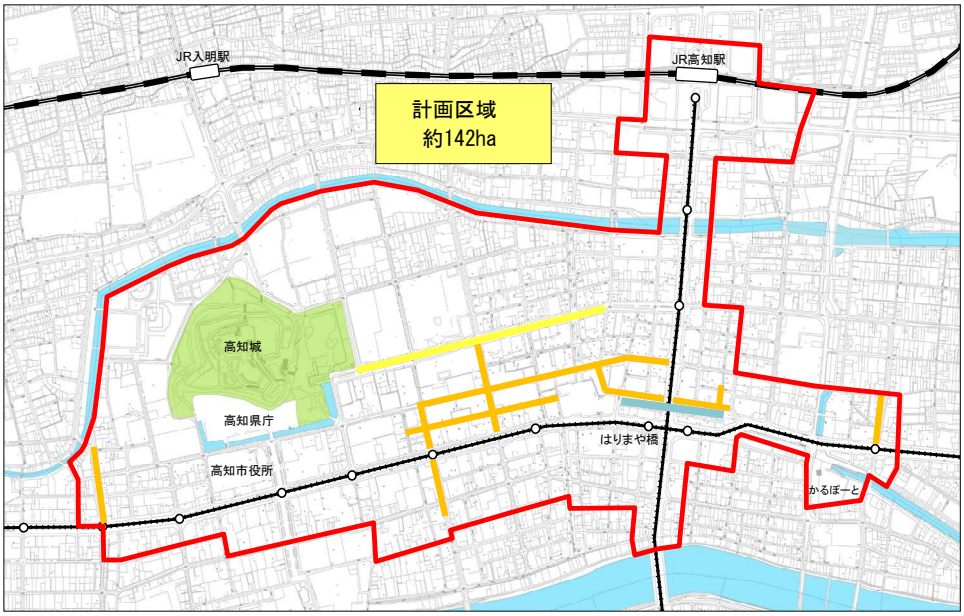
②計画区域及び面積

中心市街地の区域は、より効果的な整備を行い、早期に活性化効果を発現させることが求められることから、以下の3点に留意して設定し、約142haとした。

1)　交通結節点であり、日常的に多くの人々が集散するとともに、多くの観光客を迎えるおもてなしの場、本市の玄関口である「JR高知駅」を含む。

2)　賑わいの核である「中心商店街」と300年以上の歴史を誇る、日本一の路上マーケット「日曜市」のエリアを含む。

3)　「県庁・市役所等の行政機関の集積地」、「新図書館等複合施設」、「新資料館」、「高知市文化プラザ・かるぽーと」等、高知の歴史や風土を継承しつつ、新たな文化を創造・発信するエリアを含む。



■計画区域図（対象範囲：赤線内）

③中心市街地の課題、活性化に向けた基本方針

課題1　中心市街地での居住人口の減少（中心市街地に住まう魅力が低下している。）

平成14年から平成23年までの10年間の推移を見ると市全体人口が1.9%減少するなか、中心市街地の居住人口は17.0%と大きく減少している。近年は活性化の取組により改善傾向にあるが、文化教育施設や生活利便施設が集積し交通の利便性も高く、住まう上で魅力ある中心市街地であるにもかかわらず、市全体と比較しても依然減少率が大きい。

中心市街地人口の減少に歯止めをかけ増加に転じさせるためには、高齢者をはじめとする多様な世代が快適な都市生活を営むに必要な住宅の供給や、居住環境の向上に取り組む

ことが求められる。

⇒方針1　街なか暮らしの魅力強化

民間による商業サービス機能の魅力強化と併せ、公共公益施設など豊かな既存ストックを活用することで、街なかで世代を問わず、快適に暮らし、楽しめるよう、暮らしを支える機能を充実させる。

また、街なか暮らしを実現できる住宅も、整備誘導で充実させる。

課題2　中心市街地の魅力低下に伴う来街者の減少（中心市街地の魅力低下）

市民アンケート結果によれば、中心部へ行く頻度は７割の市民が以前より減少したと回答している。また、歩行者通行量も平成14年比で平成23年度は３～７割程度減少している。

このような来街者の減少は、郊外への大規模商業施設等の出店等に伴い、中心部の商業施設が撤退し、中心市街地を訪れる魅力や必要性が低下したことが原因と推察される。

しかし、一方では中心市街地に集積する高知城やはりまや橋の歴史資源、300年の歴史を有する街路市、さらには坂本龍馬を育んだ気風や風土を体験するために平成18年、22年の大河ドラマ効果により一時的に増加した年を除いても、年間約200万人の観光客が本市を訪れている。

観光客を含む来街者全体を増やしていくためには、日常の暮らしを豊かにする幅広いサービスを提供するとともに、土佐のおおらかさやパワー、地域に根ざした文化性を活用した新しい生活文化を発信することが求められている。

⇒方針2　土佐の気風や歴史・文化性の活用

高知の街なかには高知城や坂本龍馬に代表される豊富な歴史資源、横山隆一など独特の作風を持つ作家を輩出したまんが文化などがある。

よさこい祭り発祥の地に代表される土佐のパワーを原動力に、これらの資源と高知独自の歴史・文化を活用し、中心市街地居住者はもとより、郊外に住む市民も訪れたいと思う新しい生活文化を充実させ、市の内外へと発信する。

課題3　中心市街地での賑わい（回遊）の低下

中心市街地の歩行者通行量は、核店舗であった「高知西武百貨店」と「ダイエーショッパーズプラザ」の撤退による集客力の低下等により、平成23年は平成14年に比べ各調査地点で３割から７割減少しており、減少の幅にばらつきがある調査結果から中心市街地での回遊性が低下し、賑わいが広がりにくくなっていることが推察される。

中心市街地での賑わいを回復させるためには、地域資源を活かした新たな拠点づくりに取り組むとともに、誰もが快適に楽しく回遊して満喫できる環境づくりに総合的に取り組むことが求められている。

⇒方針3　街なか地域資源を楽しめる環境づくり

中心市街地への訪れやすさを改善した上で、歩いて楽しい商店街づくりを進めるとともに、街なかに点在する地域資源を有効活用し、一歩足を伸ばしてより街なかで時間を過ごしたくなるような環境を整える。

高齢者や子供連れをはじめとして誰もが快適に楽しく、街なかの魅力を回遊して満喫できる環境をソフト面、ハード面から整える。

○目標指標

目標	評価指標	指標値	目標値
目標1：新しい街なかの暮らし方を実感できる基盤を充実させる	中心市街地の居住人口	5,017人（平成22年度末）	5,145人（平成29年度末）
目標2：街なかの回遊性を向上させる	歩行者通行量（平日・休日合計）	103,249人（平成23年度）	105,916人（平成29年度）

(2) 取組の進捗状況

登載事業57事業のうち、事業完了が9事業、実施中が45事業、未着手が3事業となっており、事業完了と実施中を合わせると進捗率は約95％となっている。

分類	全体	完了	実施中	未着手
市街地の整備改善のための事業	12	3	8	1
都市福利施設を整備する事業	7	2	5	0
居住環境の向上のための事業	5	3	2	0
商業の活性化のための事業	31	1	28	2
公共交通の利便増進事業	2	0	2	0
計	57	9	45	3

(3)事業の進捗状況

○市街地の整備改善のための事業

	事業名	事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
1	多目的広場・遊歩道整備事業	多目的な利用が可能な広場（1,260㎡程度）及び遊歩道の整備	高知市	実施中	H27年4月　遊歩道工事発注 H27年9月　遊歩道一部供用開始 H29年度　工事完成予定
2	商店街にぎわい創出支援事業	商店街が良好な街なみ形成に向けたルールづくりの検討に取り組む際の支援	高知市・㈱高知市中心街再開発協議会	完了	H25年度　勉強会7回、景観形成重点地区原案の作成 H26年度　新図書館西景観形成重点地区指定
3	花とみどりのまちづくり事業	中心市街地内の公共空間への花や緑の設置、NPO等による維持管理への支援	高知市・花いっぱい会	実施中	・丸ノ内緑地、藤並公園、追手門前花壇、帯屋町シンボルロード、はりまや橋公園等の公共花壇において花の植え替えを行った。 ・花ストリート事業の実施
4	新庁舎建設事業	老朽化した庁舎の建て替えにあわせ、災害時の防災拠点や市民が気軽に利用できるスペースを整備	高知市	実施中	H28年6月　建設工事着工 H31年度　供用開始
5	旧少年補導センター跡地活用事業	市有地を活用した魅力ある新たな拠点整備の検討及び実施	民間	実施中	・H27年度　公募型プロポーザルを実施したが応募がなく中止 ・売却に向けた手法やスキーム等を関係課において協議、検討した。
6	賑わい広場整備事業（西敷地）	追手前小学校敷地のうち新図書館等複合施設以外の場所で、自由度の高い利用が可能な賑わい広場などを整備	高知市・民間	実施中	H28年4月　仮設市民図書館開館 H27～H28年度　新図書館西敷地利活用検討委員会の開催及び検討結果を市長へ報告 H29　公募型プロポーザル実施
7	観光バスの乗降スペース整備事業	追手門周辺（新資料館ほか）に観光バス乗降スペースを整備	高知県・高知市	完了	H26年7月　建築主体工事着手 H28年4月　竣工 H29年3月　開館
8	はりまや橋公園沿道都市美形成事業	はりまや橋公園沿道におけるモデル地区の指定に基づく、建築物等の形成規制	高知市・はりまや橋商店街振興組合、京町・新京橋商店街振興組合	実施中	はりまや橋東西地区景観形成に関する補助制度を設置
9	憩いの空間整備事業	街なかの公園のリニューアル	高知市	実施中	中央公園、城西公園、はりまや橋公園等の改修工事実施
10	高知城の環境整備事業	高知城の環境整備（樹木剪定等）	高知県・高知市	実施中	日常的な樹木管理（植栽の剪定、危険木等の除伐等）のほか、樹木調査に基づく計画的な樹木管理を行った。
11	駐輪場整備事業	街なかの公園にある駐輪場の利便性改善	高知市	未着手	高知城歴史博物館やオーテピア開館に伴い追手筋の駐輪場状況の変化に合わせ、対策を検討する。
12	道路バリアフリー促進事業（高知街87号線）	高知街87号線のバリアフリー化	高知市	完了	H27年3月　歩道新設・視覚障害者誘導標示設置工等のバリアフリー工事完了

○都市福利施設を整備する事業

	事業名	事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
1	総合あんしんセンター整備・運営事業	保健・防災・医療関連機能を備えた総合的な拠点施設の整備	高知市	実施中	総合あんしんセンターの整備、施設管理・運営事業を実施
2	新図書館等複合施設の設計等	新図書館、点字図書館、こども科学館（仮称）の整備を進めるための設計等	高知県・高知市	完了	H25年度 実施設計完了
3	新図書館の整備	老朽化、狭隘化が進み、図書館サービスの新たな展開が不十分となっている県立図書館、市民図書館の整備	高知県・高知市	実施中	H26年7月 建築主体工事着手 H27年10月 建築主体工事部分中止 H28年4月 建築主体工事再開 H29年12月 竣工 H30年7月 開館予定
4	点字図書館の整備	視覚に障害がある方に対して、図書・情報サービスの提供を行う点字図書館の整備	高知市	実施中	
5	高知みらい科学館の整備	エンターテイメント性や集客力を重視したサービスの提供を行う科学館の整備	高知市	実施中	
6	新資料館整備事業	山内家資料を中心に戦国時代から明治までの土佐の歴史資料が概観できる展示施設を整備	高知県	完了	H26年7月 建築主体工事着手 H28年4月 竣工 H29年3月 開館
7	永国寺キャンパスの整備	社会科学系学部の設置及び文化学部の拡充	高知県	実施中	H27年3月 第1期工事完成 H27年4月 第2期工事開始 H29年3月 図書館及び体育館の整備

○居住環境の向上のための事業

	事業名	事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
1	帯屋町二丁目地区優良建築物等整備事業	物販、オフィス、生活支援サービス施設と住宅の整備	再開発事業者	完了	H25年9月 建築工事着手 H27年7月 工事完了 H27年8月 グランドオープン
2	住生活基本計画の推進	住生活基本計画に基づいた事業の促進	高知市	実施中	中心市街地住宅等リフォーム事業(H26～H28年度)
3	借上公営住宅の供給促進事業の検討	中心市街地内において民間が建設した共同住宅や空き家を市が借上げ、公営住宅として供給	高知市	完了	検討の結果、戸数は現状維持とし、借上公営住宅の検討を保留。民間のストックを有効活用し「中心市街地住宅等リフォーム事業」を実施した。
4	「セントラルレジデンス高知中央公園」整備事業	中心市街地における民間分譲マンション等の建設（住戸数：108 戸）	住友不動産株式会社	完了	H25年9月 入居開始 H27年度 全戸完売
5	来街者にやさしい環境づくり	授乳・おむつ替えが可能な施設や休憩所の充実、タウンモビリティ活動、エリア内の美化活動等の実施	高知県・高知市・高知TMO・中心商店街・NPO法人福祉住環境ネットワークこうち	実施中	【タウンモビリティ】 H27年4月 「タウンモビリティステーションふくねこ」の開設、タウンモビリティ事業の実施及び支援 【美化活動】 「県民一斉美化活動月間」や「初夏のまちを美しくする運動」に取り組んだ。

○商業の活性化のための事業

事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
1	大規模小売店舗立地法特例区域指定	「大規模小売店舗立地法」の特例区域の指定	高知県・高知市	未着手	中心市街地活性化の核となる大規模小売店舗の出店動向に備え、検討を行ってきたが、特例区域の指定には至っていない。
2	よさこい情報発信機能強化事業	よさこいをテーマとした展示、イベントの開催など	高知県・高知市・公益社団法人高知市観光協会・はりまや橋商店街振興組合	実施中	H25年4月 「高知よさこい情報交流館」開設 H25年7月　スペース拡張 商店街等と連携したよさこい踊りの披露等を実施
3	おもてなし拠点の魅力向上事業	よさこい披露や体験などのおもてなし空間整備等	高知市	実施中	オフシーズンでのよさこい披露やこうち旅広場での各種イベントの実施
4	はりまや橋魅力化事業	はりまや橋のライトアップなど	高知市、京町・新京橋商店街振興組合、はりまや橋商店街振興組合	実施中	はりまや橋ライトアップの実施、はりまや橋周辺のまち歩き観光マップの作成、配布
5	空き店舗対策事業	地区内の商店街の空き店舗を活用して店舗の新規立地・事業拡大を図る事業者に対し助成	高知県・高知市・商工会議所	実施中	高知県商店街魅力向上事業、高知市空き店舗活用創業支援事業を実施
6	おまちの情報発信事業（街なかイベントマネージメント事業含む）	街なかで行われるイベントの相互連携・効果的なスケジュール設定・一体的情報発信などを戦略的にマネージメントする	高知県・高知市・株式会社高知市中心街再開発協議会	実施中	・外国人観光客を対象とした多言語パンフレット等の配布 ・中心商店街ＨＰ「よさこいタウン」での情報発信
7	新図書館等複合施設での中心市街地活性化支援事業	整備する新図書館等複合施設での中心市街地活性化に貢献できるソフト事業の実施	高知県・高知市	未着手	オーテピア工期延長に伴い、事業実施の延期（H30年度に事業実施予定）
8	学生による日曜市サポート事業	大学生による日曜市の出店者の出店サポートや、空きコマを活用した臨時出店	高知市・学生	実施中	・高知大学学生グループによる休憩所兼観光案内所の運営及び出店者の出店サポート
9	観光まち歩きガイド事業の推進	地区内のまち歩き観光コースの拡充や、観光ガイドサービスを展開	高知市・NPO人土佐観光ガイドボランティア協会	実施中	・龍馬の生まれたまち歩き「土佐っ歩」の実施 ・コースの改編、拡充
10	フラフ等による商店街の演出	よさこい、土佐の偉人等（龍馬の言葉）のテーマを設定し、商店街でのフラフ等を活用した演出	高知市・株式会社高知市中心街再開発協議会	実施中	季節ごとのテーマにあわせたフラフやペナントで商店街を明るく演出した。 春：南国土佐の春、夏：本家よさこい、秋：土佐の偉人、冬春：土佐の食楽食遊
11	案内板等の充実や多彩なまち歩きの促進	エリア内のビューポイントやスポットをつなぐ、情報機器を活用した、多彩なまち歩きの取組の促進	高知市・協同組合帯屋町筋	実施中	商店街内にデジタルサイネージを２台設置し、多彩なまち歩きの促進を図った。
12	“まちの灯台”エスコーターズ事業	高知県立大学学生が結成した「エスコーターズ」による、商店街内の案内・介助等の活動の補助	高知TMO・学生・中心商店街	実施中	エスコーターズが毎週日曜日に街なかで案内・清掃・介助等の活動を行うほか、季節イベントも実施した。
13	街なか季節イベント	各商店街等における、季節イベントを発展・拡充	高知県・高知市・株式会社高知市中心街再開発協議会・各商店街	実施中	・各商店街でのイベントを実施（おびさんマルシェ、るんだ商店街、壱番街劇場、京町・新京橋クリスマス、おまちで結婚式　等） ・土佐のおきゃく、こうち春花まつり、土佐の豊穣祭

○商業の活性化のための事業

	事業名	事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
14	街なか学生活動連携事業	商店街活動やまちづくり活動を行う複数の大学生グループの交流の機会の提供等	高知市、学生、京町・新京橋商店街振興組合	実施中	H25年11月　「高知市学生活動交流館」開設。学生グループが作品展示、実習等の活動を行った。
15	観光周遊バス運行事業	高知駅と桂浜を発着点として市内の観光地を経由するバスの運営、中心市街地の飲食店や店舗と連携	財団法人高知県観光コンベンション協会	実施中	「MY遊バス」を運行。観光施設や宿泊施設等において割引特典、サービスを付与。
16	IC カード「ですか」活用事業	既存のIC カード「ですか」のチャージ機を商店街へ設置する等、さらなる商店街との連携策の検討	株式会社ですか・協同組合帯屋町筋	実施中	「ですかキャンペーン」、「ナイスエイジですかキャンペーン」の実施
17	商店街定期イベント	各商店街における、定期的イベントを発展・拡充	株式会社高知市中心街再開発協議会	実施中	各商店街が特色を生かしたイベントを定期的に実施。（お城下市、おかみさん市、ストリートダンス、金曜はりまや市、木々くらぶ　等）
18	街路市・商店街回遊促進事業の検討	街路市の空きコマを活用し、商店街情報を紹介するブース等を設け、街路市と商店街間の回遊を促進する事業	高知市・商店街・民間	実施中	・日曜市休憩所兼観光案内所及び高知市観光協会出店ブースにおいて、商店街イベントチラシの配布等を行った。 ・愛宕商店街が金曜市と連携したイベントを実施。（H29年3月）
19	商店街まちなみアドバイス事業	良好なまちなみの形成に向けたルールづくりの勉強会の開催及びアドバイザーの派遣	高知市・株式会社高知市中心街再開発協議会	完了	H25年度　勉強会7回、景観形成重点地区原案の作成 H26年度　新図書館西景観形成重点地区指定
20	商店街アーケードリニューアル整備、放送設備及び防犯カメラ整備事業	アーケードのリニューアル、放送設備の整備、防犯カメラの整備	商店街	実施中	【平成25年度実施】 帯屋町二丁目商店街、大橋通り商店街、壱番街商店街 【平成26年度実施】 はりまや橋商店街、中の橋商店街 【平成28年度実施】 升形商店街
21	物産販売と中心街支援の拠点「てんこす」の充実	県産品のアンテナショップの運営、イベントや各種講座の実施など	株式会社まこと	実施中	県産品アンテナショップの運営
22	街なかガーデニング事業	商店街やアーケードにおいて植物等で季節感や華やかさを演出	株式会社高知市中心街再開発協議会	実施中	アーケード内に鉢植えを設置し、商店街を明るく演出した。
23	街なかキャンパス事業	地区内の施設・空間を活用し、多様な世代を対象とする講座の開設や、受講後の買い物の促進	民間	実施中	市で学生活動交流館を設置、学生がゼミやボランティア活動等実施
24	日曜市とおまちを結ぶ新たなマーケット等の検討	日曜市の開催時に併せて、新たなマーケット等の展開を検討	高知市・民間	実施中	中央公園でＧＷに開催される「こうち春花まつり」に日曜市から５店舗が出店した。

○商業の活性化のための事業

事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
25	新資料館による中心市街地活性化事業	高知城下まちあるきガイド向け講座、日曜市と関連したイベント、まちの歴史文化スポットに関する情報提供など	高知県	実施中	H28年3月　オープン１年前プレイベント実施（文化と地域社会シンポジウム、歴史散策会） H28年8月　オープン半年前プレイベント実施（高知城探検） H28年12月　オープン直前イベント実施（門松講座）
26	京町チャレンジショップ事業	新規出店や業種転換を予定している経営者の育成事業	高知県・高知市、京町・新京橋商店街振興組合	実施中	・H28年度までに22組がチャレンジし、うち12組が開業。 ・H28年度は3組がチャレンジし、2組が開業。 ・H29年3月～　8期生
27	まんがによる中心市街地活性化事業	まんがに関連したイベントの開催など	高知県・高知市	実施中	・8月「まんが甲子園」の開催、歴代最優秀作品モニュメントをかるぽーと前堀川緑地に移設完了 ・11月　「まんさい」の開催 ・3月「全国漫画家大会議in まんが王国・土佐」の開催
28	駐車場の利便性の向上	駐車場割引サービス等の実施等	高知県・高知市・民間	実施中	平成29年1月　中央公園地下駐車場の駐車料金を減額改定（最初の1時間の駐車料金300円→200円に、1時間以上駐車の場合の追加料金30分毎に150円→100円）
29	既存店の魅力向上事業	既存店の魅力向上に向けた取り組みを支援	高知県・民間	実施中	高知県商店街魅力向上事業を実施
30	外国人観光客受入の基盤整備	外国人観光客受入の基盤整備	高知県・高知市・民間	実施中	・H28年3月　免税一括カウンターの設置 ・中心市街地多言語マップ及びガイドブックの配布 ・外国客船寄港時におけるおもてなしの実施
31	商店街防災対策	南海トラフ地震等発生時における来街者の津波避難対策の推進	高知市・民間	実施中	津波避難ビル指定を推進

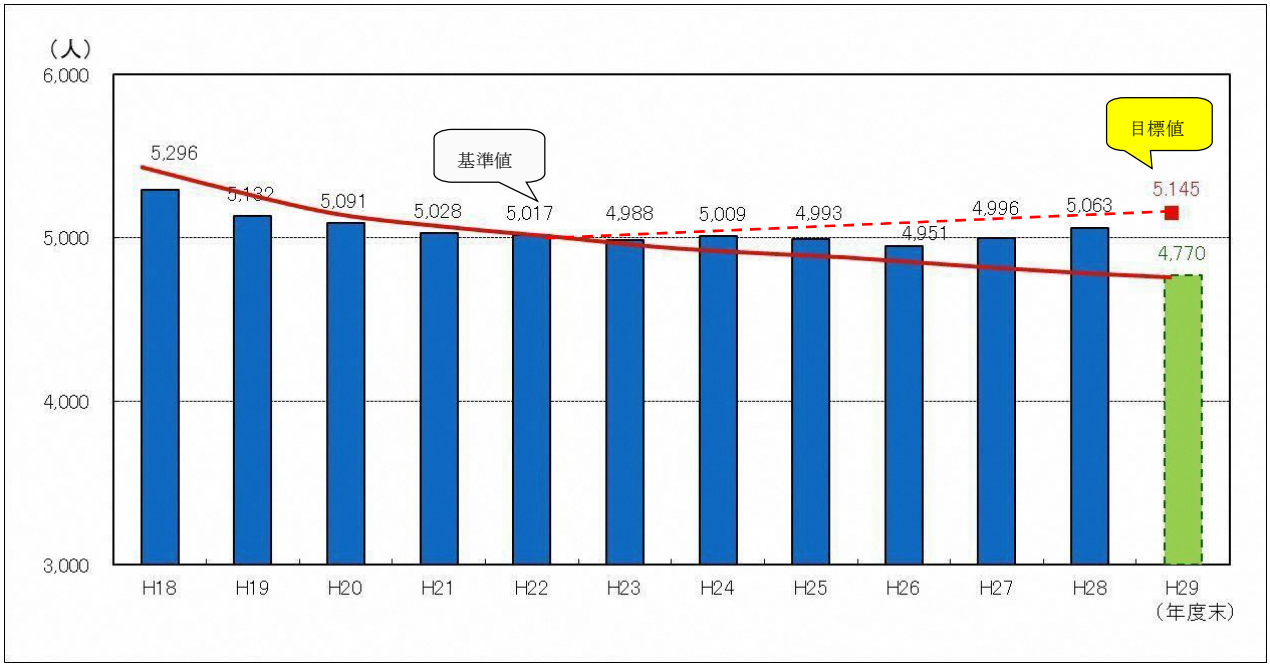
○公共交通の利便増進のための事業

事業名		事業内容	実施主体	進捗状況	主な実績等
1	路面電車高齢者パス販売事業	高齢者が、格安で路面電車を利用できる定期券を販売	とさでん交通株式会社	実施中	「高齢者おでかけ支援定期」販売
2	交通基本計画の推進	交通基本計画に基づいた事業の促進	国・高知県・高知市・交通事業者・市民	実施中	バス停留所の改善，バス路線の再編，イベント「交通安全ひろば」開催による公共交通の利用促進

(4) 評価指標の達成状況と評価

評価指標1：中心市街地の居住人口

基準値		最新値		目標値
5,017人 （平成22年度末）	→	5,063人 （H28年度末）	→	5,145人 （平成29年度末）



■中心市街地の居住人口の推移

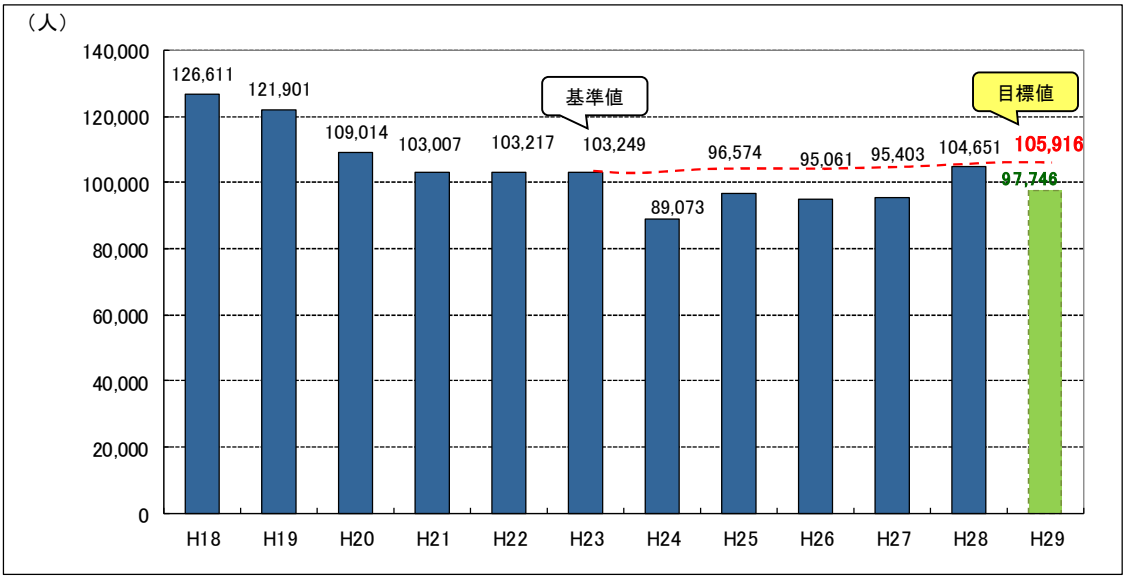
〈達成状況〉

主要事業の「『セントラルレジデンス高知中央公園』整備事業」は平成25年9月から分譲開始され、平成27年度に全108戸完売、「帯屋町二丁目地区優良建築物等整備事業」（帯屋町チェントロ）は平成27年8月に完成し、賃貸住宅部分全91戸については全戸契約済となった。

中心市街地の居住人口は、基準年である平成22年から平成26年度までは減少傾向にあったが、主要事業の進捗に伴うように平成27年度からは増加に転じており、平成28年度には5,063人に達し、平成22年度の基準値5,017人から46人増加している。

評価指標2：歩行者通行量（平日・休日合計）※2日・14地点

基準値		目標値
103,249人 (H23年度)	最新値 104,651人 (H28年度)	105,916人 (H29年度)



■歩行者通行量の推移

〈達成状況〉

「よさこい情報発信機能強化事業」（高知よさこい情報交流館、平成25年4月開館）や「帯屋町二丁目地区優良建築物等整備事業」（帯屋町チェントロ、平成27年8月オープン）、「新資料館整備事業」（高知城歴史博物館、平成29年3月開館）など、主要事業の進捗に伴い歩行者通行量は増加傾向にあり、平成28年度は104,651人に達し、平成23年度の基準値103,249人から1,402人増加している。

(5)前計画の総括

指標である「中心市街地の居住人口」と「歩行者通行量」がいずれも増加していることが示すように、中心市街地の全体的な雰囲気としては賑わいが戻りつつあると感じられる。また、平成27年の高知県立大学永国寺キャンパスオープンにより、学生等若者の来街も多く見られるようになった。平成28年12月に実施した来街者の意識調査においても、中心市街地の雰囲気が計画策定前と比較して「良くなっている」と回答した人が「悪くなっている」を上回っている。

計画で掲げていた目標指標のうち、目標①「新しい街なかの暮らし方を実感できる基盤を充実させる」の指標である「中心市街地の居住人口」については、主要事業が完了しており、平成26年度を底に増加に転じている。平成28年度現在で目標に達していないものの、中心市街地内で他のマンション建設も進んでおり、最終的には目標値は達成されると思われる。

また、目標②「街なかの回遊性を向上させる」の指標である「歩行者通行量」は、主要事業の進捗に伴い増加傾向にあり、平成23年度の基準値103,249人と比較して平成28年度は1,402人増加の104,651人に達した。主要事業の「新図書館の整備」は計画期間の開館は困難となったものの、平成29年に開館した高知城歴史博物館などの効果により今後も歩行者通行量が増加すると見込まれ、最終的には目標値は達成されると思われる。

一方で、課題として、市全体の人口減少が進むなか、中心市街地においては居住人口は増加に転じたものの、高齢化率が高い中心市街地では自然減により再び減少に向かうことが想定される。

歩行者通行量については、中心市街地全体の数値は増加したものの、さらにエリアを分けて見てみると、偏りがあり、特に中心部の西側は計画策定時と比べ増加しているのに対し、東側は減少している。これは、前計画における主要ハード事業が西側に多かったこと等の影響によるものと考えられる。

また、観光客入込数は近年300万人を超えており、高知城歴史博物館開館や幕末維新150年関連イベントの開催により増加が見込まれている，加えて、ビザ緩和や訪日外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充などにより、訪日外国人旅行者が増加傾向にあるとともに、クルーズ客船の寄港増加など、今後も外国人観光客の増加が予測されている状況にある。

［5］ 中心市街地活性化の課題

【課題１】中心市街地の居住人口の減少

中心市街地の居住人口は平成27年度から増加に転じているが、市全体の人口は減少傾向にあり、今後人口減少が加速度的に進むことが予測されるなか、中心市街地も再び減少することが想定される。

居住人口の確保はまちが成り立つ基本的条件であり、まちの活力の源であることから、暮らしやすい中心市街地を実現し、コンパクトシティの形成をすすめ、中心市街地の居住人口の割合を高めていく必要がある。

【課題２】歩行者通行量の偏在化

平成24年度の現行計画策定当時と平成28年度を比較すると、中心市街地全体での歩行者通行量は増加しているが、エリア別に見ると中心部では中央公園をはさんで西側エリアが増加したのに対し、東側エリアは減少している。また、中心部をはさんだ東西の商店街も歩行者通行量が減少している。

このような歩行者通行量の偏在化を解消するためには、人々の回遊が活発になり、滞留を促進させることが重要である。したがって、観光・歴史・文化をはじめとするさまざまな地域資源を活用しつつ、魅力ある機能をエリア全体に展開し、各機能を連携させることで中心市街地の回遊性を向上させる必要がある。

【課題３】国内外からの来街者への対応

高知城歴史博物館の開館及び幕末維新150年関連イベントの開催、さらにはオーテピアの開館等をきかっけとして高知市内外からの来街者の増加が見込まれている。また、ビザ緩和や訪日外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充などにより、訪日外国人旅行者が増加傾向にあるとともに、クルーズ客船の寄港増加など、今後外国人観光客の増加も予測されている。

このように増加する国内外からの来街者に対して受入態勢を充実させることで、中心市街地の魅力向上を図り、中心市街地を再び訪れたくなるような取組を進める必要がある。

[6] 中心市街地活性化の基本的な方針

＜中心市街地活性化の考え方＞

前計画の進捗により、平成27年度に商業施設と賃貸マンションの複合施設「帯屋町チェントロ」がオープンしたことや永国寺キャンパスが整備されたことにより、学生や若者が中心市街地を歩く姿が目立つようになり、歩行者通行量も増えている。また、平成29年3月の高知城歴史博物館の開館により中心市街地に新たな賑わいが生まれている。平成30年7月には新図書館等複合施設（オーテピア）が開館を控えており、さらなる活性化が期待されるところである。

一方で、現状分析から見えてきたように、今後すすむと予測される人口減少や、来街者は増加したもののエリアによって歩行者通行量のばらつきが見られるという偏在化が顕著となっている。

また、近年ではクルーズ客船による観光客が増加しており、今後も増加が予測される国内外からの来街者への対応充実が必要となっている。

以上のことから、新計画における中心市街地の活性化は、前計画で明らかとなった課題を解消するとともに、商業・観光・歴史・文化・教育・福祉など、中心市街地に存在するあらゆる地域資源を活用し、それらの魅力を相互に活かした活性化施策の展開に取り組んでいくことで、居住人口の確保と交流人口の拡大を図り、賑わい溢れる本市の「顔」にふさわしい中心市街地の形成を目指す。

【基本コンセプト】

地域資源の魅力が織り成す、「暮らし」と「交流」の調和したまち